

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者		コクリツダイガクホウジン ヒロサキダイガク 国立大学法人弘前大学							
フリガナ大学の名称		ヒロサキダイガクダイガクイン 弘前大学大学院（Graduate School of Hirosaki University）							
大学本部の位置		青森県弘前市大字文京町1番地							
大学の目的		弘前大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の発展に寄与することを目的としている。							
新設学部等の目的		教育学部の教職及び教科又は特別支援教育、養護専門教育を基礎とし、学校教育学、教科教育学、特別支援教育学、養護教育学及び教科専門、養護専門の諸科学に関する精深な教育・実践活動を通して、新しい時代に必要となる教員として資質・能力を身につけ、学校教育に関する諸課題への対応に貢献できる高度専門職業人を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教育学部 大学院設置基準第14条による教育方法の特例の実施 教職大学院
	教育学研究科 [Graduate School of Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	教職実践専攻 [Program for Professional Development of Teachers]	2	18	—	36	教職修士（専門職） [Master of Education]	令和2年4月 第1年次	青森県弘前市大字文京町1番地	
	計		18	—	36				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		【学部】 教育学部学校教育教員養成課程 [定員減] (△10) (令和2年4月) 医学部心理支援科学科 (10) (平成31年3月意見伺い) 【大学院】 地域共創科学研究科 地域リノベーション専攻（修士課程） (15) (平成31年3月意見伺い) 産業創成科学専攻（修士課程） (15) (平成31年3月意見伺い) 人文社会科学研究科 文化科学専攻（修士課程） (△10) (令和2年4月学生募集停止) 応用社会科学専攻（修士課程） (△ 6) (令和2年4月学生募集停止) 人文社会科学専攻（修士課程） (16) (平成31年4月事前伺い) 教育学研究科 学校教育専攻（修士課程） (△16) (令和2年4月学生募集停止) 教職実践専攻（専門職学位課程） (△16) (令和2年4月学生募集停止) 農学生命科学研究科 農学生命科学専攻（修士課程） [定員減] (△10) (令和2年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学研究科	0科目	90科目	18科目	108科目	46単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
教 員	教育学研究科								平成31年3月 意見伺い
	教職実践専攻（専門職学位課程）		19 (19)	13 (13)	9 (9)	1 (1)	42 (42)	0 (0)	
	地域共創科学研究科								
	地域リノベーション専攻 （修士課程）		15 (15)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	
	産業創成科学専攻（修士課程）		13 (13)	13 (13)	1 (1)	6 (6)	33 (33)	0 (0)	
	人文社会科学研究科		人	人	人	人	人	人	平成31年4月 事前伺い
	人文社会科学専攻（修士課程）		19 (19)	27 (26)	12 (12)	2 (0)	60 (57)	0 (0)	
	計		66 (66)	62 (61)	25 (25)	9 (7)	162 (159)	0 (0)	
組 織 の 概 要	医学研究科								
	医科学専攻（博士課程）		43 (43)	24 (24)	16 (16)	23 (23)	106 (106)	13 (13)	
	保健学研究科								
	保健学専攻（博士前期課程）		28 (28)	15 (15)	18 (18)	17 (17)	78 (78)	0 (0)	
	保健学専攻（博士後期課程）		28 (28)	14 (14)	7 (7)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	
	理工学研究科								
	理工学専攻（博士前期課程）		37 (37)	40 (40)	3 (3)	18 (18)	98 (98)	0 (0)	
	機能創成科学専攻（博士後期課程）		18 (18)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	
	安全システム工学専攻 （博士後期課程）		24 (24)	20 (20)	0 (0)	4 (4)	48 (48)	0 (0)	
	農学生命科学研究科								
	農学生命科学専攻（修士課程）		25 (25)	29 (29)	0 (0)	9 (9)	63 (63)	0 (0)	
	地域社会研究科								
	地域社会専攻（後期3年博士課程）		15 (17)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	22 (24)	0 (0)	
	医学部附属病院		0 (0)	9 (9)	35 (35)	69 (69)	113 (113)	32 (32)	
	被ばく医療総合研究所		3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	
	地域戦略研究所		5 (5)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	
	生涯学習教育研究センター		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	
	国際連携本部		0 (0)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	
	教育推進機構		1 (1)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	10 (10)	0 (0)	
	COI研究推進機構		1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	
	COC推進室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	男女共同参画推進室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計		231 (233)	188 (188)	84 (84)	150 (150)	653 (655)	45 (45)	
	合 計		278 (278)	241 (240)	109 (109)	159 (157)	787 (784)	45 (45)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		307 (307)		295 (295)		602 (602)		
	技 術 職 員		733 (733)		299 (299)		1032 (1032)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	そ の 他 の 職 員		3 (4)		94 (94)		97 (98)		
	計		1, 046 (1, 046)		688 (688)		1, 734 (1, 734)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	76,254 m ²	0 m ²		0 m ²		76,254 m ²		
	運 動 場 用 地	82,910 m ²	0 m ²		0 m ²		82,910 m ²		
	小 計	159,164 m ²	0 m ²		0 m ²		159,164 m ²		
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²		0 m ²		169,525 m ²		
	合 計	328,689 m ²	0 m ²		0 m ²		328,689 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		166,963 m ² (166,963 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		166,963 m ² (166,963 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	102室	111室	459室		12室 (補助職員0人)		7室 (補助職員0人)		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数			
		教育学研究科				42 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	—	821,909 [232,587] (821,909 [232,587])	24,806 [6,310] (24,806 [6,310])		7,047 [5,717] (7,047 [5,717])	2,213 (2,213)	6,242 (6,242)	10 (10)	
	計	821,909 [232,587] (821,909 [232,587])	24,806 [6,310] (24,806 [6,310])		7,047 [5,717] (7,047 [5,717])	2,213 (2,213)	6,242 (6,242)	10 (10)	
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
		7,680 m ²		626 席		868,473 冊			
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		文京町 3,394 m ²		野球場 (2面)		武道場 (883m ²)			
				弓道場 (140m ²)		テニスコート (8面)			
		本町 1,457 m ²		プール (50m)		サッカー・ラグビー場 (2面)			
馬房 (196m ²)				400mトラック					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		

		学生納付金以外の維持方法の概要			—					
既 <										

平成29年度より
学生募集停止

平成28年度より
学生募集停止

の <
--

目 的： 附属図書館は、教育、研究及び学習活動に資するため、図書、雑誌その他の資料を収集、管理し、本学の職員及び学生の利用に供するとともに、地域社会の図書館活動に協力し、学術情報の利用に寄与することを目的とする。

所 在 地： （本館）弘前市大字文京町1番地
（医学部分館）弘前市大字在府町5番地

設置年月： （本館）昭和24年5月
（分室）昭和27年3月

規 模 等： （本館）土地 135,267㎡、建物 6,111㎡
（医学部分館） 医学部内

（学部等の附属施設）

名 称： 教育学部附属幼稚園

目 的： 幼児に適切な環境を与えてその心身の調和的発達を助長するとともに、教育学部における幼児教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、幼児教育の促進向上のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを達成することをもって目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1

設置年月： 昭和26年4月

規 模 等： 建物 1,065㎡

名 称： 教育学部附属小学校

目 的： 心身の発達に応じて初等普通教育を施し、併せて教育学部における小学校教育の実証的研究に協力し、又、学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるほか、小学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1

設置年月： 昭和40年4月

規 模 等： 建物 8,288㎡

名 称： 教育学部附属中学校

目 的： 小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施し、併せて教育学部における中学校教育の実証的研究に協力し、また、学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるほか、中学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1

設置年月： 昭和40年4月

規 模 等： 建物 8,171㎡

名 称： 教育学部附属特別支援学校

目 的： 知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、教育学部における知的障害教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、知的障害教育の発展のため、積極的に地域の教育機関に協力することを達成することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字富野町1番地76

設置年月： 平成19年4月

規 模 等： 土地 10,617㎡、建物 3,874㎡

名 称： 教育学部附属教育実践総合センター

目 的： 附属学校園及び他の教育諸機関並びに地域社会と連携し、教育実践と学修支援に関する業務を担い、実践的指導力を持つ教員の養成に寄与するとともに、地域社会の教育活動を支援することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字文京町1番地

設置年月： 平成13年4月

規 模 等： 建物 541㎡

名 称： 教育学部附属教員養成学研究開発センター

目 的： 教員養成学（教員養成の方法と効果に関する理論的実証的研究）を推進し、カリキュラム開発等に反映させることを通じて教員養成諸活動の不断の改善に寄与することを目的とする。

附属施設の概要

所在地： 弘前市大字文京町1番地
設置年月： 平成15年10月
規模等： 教育学部内

名称： 教育学部附属教員免許状更新講習支援室
目的： 更新講習に係る企画，立案，調整及び実施に関すること，講習内容及び実施方法の改善に関すること等の業務を行い，本学における更新講習の充実及び発展に寄与することを目的とする。

所在地： 弘前市大字文京町1番地
設置年月： 平成28年10月
規模等： 教育学部内

名称： 医学部附属病院
目的： 医学の教育及び研究の目的をもって，患者の診療を行うところとする。

所在地： 弘前市大字本町53番地
設置年月： 昭和24年5月
規模等： 土地 94,511㎡，建物 74,320㎡

名称： 医学研究科附属脳神経血管病態研究施設
目的： 脳神経疾患の成因・病態の解明，診断法の確立，治療・社会復帰促進などに関する研究の推進を目指す。

所在地： 弘前市大字在府町5番地
設置年月： 平成11年4月
規模等： 医学研究科内

名称： 医学研究科附属高度先進医学研究センター
目的： プロジェクト型研究施設，共通機器施設としての機能を備え，疾病発生のメカニズムを分子レベルで解明し，実際の臨床の場に還元できるような研究を推進することを目的とする。

所在地： 弘前市大字在府町5番地
設置年月： 平成17年4月
規模等： 医学研究科内

名称： 医学研究科附属動物実験施設
目的： 実験動物の飼育管理の充実を図り，精度の高い動物実験による高度な研究・教育の推進を目指す。

所在地： 弘前市大字在府町5番地
設置年月： 昭和54年4月
規模等： 建物 4,894㎡

名称： 医学研究科附属子どものこころの発達研究センター
目的： 様々な機関との連携を通し，子どものこころの問題に関する医療的支援や教育・研究活動を進め，東北地区の子どもに対する支援体制の整備や，研究拠点の創生を目的とする。

所在地： 弘前市大字在府町5番地
設置年月： 平成26年4月
規模等： 医学研究科内

名称： 理工学研究科附属地震火山観測所
目的： 地震観測及び火山観測並びに地震及び火山に関する研究を行い，併せて学生の地震学の実習を行うことを目的とする。

所在地： 弘前市大字文京町3番地
設置年月： 昭和56年4月
規模等： 建物 268㎡

名称： 理工学研究科附属医用システム創造フロンティア
目的： 学内連携，地域連携による医用システムに関する研究，教育，社会貢献に関するCOC（Center Of Community：地域連携拠点）の機能を担い，研究分野では医学と理工学が協同し，地域企業との連携により新たな医用システム産業の創出を目的とする。

所在地： 弘前市大字文京町3番地

設置年月：平成26年4月
規模等：理工学研究科内

名称：農学生命科学部附属遺伝子実験施設
目的：動植物微生物の遺伝子及びその機能に関わる基礎研究と動植物の品種改良など遺伝子工学に基づく応用研究を推進することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町3番地
設置年月：平成5年4月
規模等：建物 1,527㎡

名称：農学生命科学部附属生物共生教育研究センター
目的：フィールドサイエンス教育及び研究の拠点施設として、青森県の基幹産業である農業を教育・研究の両面から活性化し、地域の優れた人材、資源、技術、環境を地域から日本全国または世界へと発信することを目的とする。
所在地：（藤崎農場）南津軽郡藤崎町大字藤崎下袋7番地1
（金木農場）五所川原市大字金木町芦野84番地
（深浦実験所）西津軽郡深浦町大字吾妻沢173番地
設置年月：（藤崎農場）平成12年4月
（金木農場）平成12年4月
（深浦実験所）平成12年4月
規模等：（藤崎農場）土地 142,607㎡、建物 2,391㎡
（金木農場）土地 358,798㎡、建物 4,806㎡
（深浦実験所）土地 798㎡、建物 165㎡

名称：農学生命科学部附属白神自然環境研究センター
目的：本学の教育、研究、社会連携による地域貢献の推進を図ることを目的とする。
所在地：中津軽郡西目屋村大字川原平大川添101番地1
設置年月：平成22年10月
規模等：土地 178,560㎡、建物 255㎡

（学内共同教育研究施設）

名称：生涯学習教育研究センター
目的：生涯学習に関する教育(医学及び保健に関することを含む。)及び研究を行い、本学の教育研究の進展と地域における生涯学習の振興に資することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町3番地
設置年月：平成8年5月
規模等：弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大内

名称：保健管理センター
目的：本学学生等及び職員の保健管理に関する専門的業務の実施に当たることを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町1番地
設置年月：昭和42年6月
規模等：建物 477㎡

名称：アイソトープ総合実験室
目的：放射性同位元素を使用する教育研究及び放射性同位元素の使用に関する安全管理を行うとともに、一般社会に対する放射線障害の防止に関する啓発を行うことを目的とする。
所在地：弘前市大字在府町5番地
設置年月：平成11年10月
規模等：医学部内

名称：出版会
目的：学術関連図書及び教科書の刊行・頒布を主たる事業とし、本学の研究とその成果の発表を助成するとともに、我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町1番地
設置年月：平成16年6月

	規 模 等： 附属図書館（本館）内 名 称： 資料館 目 的： 本学における歴史的，博物的，学術的資料を展示，保存及び整理し，教育研究及び学習活動に資するとともに，地域社会の教育文化の発展に寄与することを目的とする。 所 在 地： 弘前市大字文京町1番地 設置年月： 平成24年10月 規 模 等： 附属図書館（本館）内	
--	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要														
（教育学研究科 教職実践専攻）														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 科目	①教育課程の編成・実施に関する領域 教育課程編成をめぐる動向と課題 教育課程の開発と実践	1前 1前	2 2				○ ○		1 1	2 1				共同 共同
	②教科等の実践的な指導方法に関する領域 学びの様式と授業づくり	1前	2				○		1 1	1				兼1 共同
	③生徒指導、教育相談に関する領域 生徒指導の理論的視点と実践的視点 教育相談の理論と方法	1前 1前	2 2				○ ○		1 1	1 1				兼1 共同 共同
	④学級経営、学校経営に関する領域 学校安全と危機管理 教育経営の課題と実践	1前 1前	2 2				○ ○		2		1			兼1 共同 共同
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 教育における社会的包摂 現代の学校と教員をめぐる動向と課題	1前 1前	2 2				○ ○		1 1	1 1				共同 共同
	小計（9科目）	—	18	0	0		—		7	4	1	0	0	兼2 —
	目独自 マ科	あおもりの教育Ⅰ（環境） あおもりの教育Ⅱ（健康） インクルーシブ教育システムの理論と課題	1前 1前 1前	2 2 2			○ ○ ○		1 1 1		1			兼8 共同 兼5 共同 共同
	小計（3科目）	—	6	0	0		—		3	1	1	0	0	兼13 —
発展 科目	ミドル リーダー 養成 科目	①教育課程の編成・実施に関する領域 地域教育課題研究（教育課程編成・ 教材開発）	1後		2			○	1	1				兼1 共同
		③生徒指導、教育相談に関する領域 協働的生徒指導のマネジメント	1後		2			○	1	1				兼1 共同
		④学級経営、学校経営に関する領域 学校の地域協働と危機管理 教育法規の理論と実践 学校教育と教育行政	1後 1後 1後		2 2 2		○ ○ ○		2		1 1			共同 兼1 共同 兼1 共同
		⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 教職員の職能成長	1後		2			○	1	1				共同
		⑥全領域の発展に関する領域 学校保健のマネジメント 学校安全と事故防止 養護実践課題解決研究（発展）	1後 1後 1後		2 2 2		○ ○ ○		1 3 2					兼1 共同 兼1 共同 兼1 共同
		小計（9科目）	—	0	18	0		—	5	3	1	0	0	兼4 —
	学部 新卒 学生 共通 科目	②教科等の実践的な指導方法に関する領域 授業づくりの理論と実践 道徳の理論と授業実践のあり方 総合的な学習のカリキュラム開発演習	1後 1後 1後		2 2 2			○ ○ ○	1 2	1 1				兼1 共同 兼1 共同 共同
		④学級経営、学校経営に関する領域 教育実践課題解決研究	1後		2			○	3					共同
		小計（4科目）			8				5	1	0	0	0	兼1 —

学校教育実践コース科目	①教育課程の編成・実施に関する領域														
	教育・社会理論と教育実践	1後	2			○		1	1	1				兼1	共同
	②教科等の実践的な指導方法に関する領域														
	地域教育課題研究（授業づくり）	2後	2			○		1	1					兼1	共同
	③生徒指導，教育相談に関する領域														
	実践的教育相談の課題と展開	1後	2			○		1	1						共同
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域														
	教育における社会的包摂の課題研究	2後	2			○			2						共同
	⑥全領域の発展に関する領域														
	教育心理学特論	1後	2			○		2			1				共同
	養護実践課題解決研究	1後	2			○		2	1	1					共同
	幼児児童教育の理解	2前	2			○			1	1					共同
	学校保健の協働的展開	2前	2			○		2	1	1					共同
	養護教諭の行う健康相談の理論と実践	2前	2			○		1	1	1					共同
	学校における救急処置活動の理論と実践	2後	2			○		3	1						共同
小計（10科目）		—	0	20	0	—		7	5	3	1	0	兼1	—	
教科領域実践コース	②教科等の実践的な指導方法に関する領域														
	国語科教育学特論Ⅰ	1後	2			○			1	1			兼2	共同	
	社会科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1	1				兼4	共同	
	数学科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1	1				兼3	共同	
	理科教育学特論Ⅰ	1後	2			○			1				兼2	共同	
	音楽科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1		1			兼3	共同	
	美術科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1					兼4	共同	
	保健体育科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1	1	2			兼1	共同	
	技術科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		2					兼2	共同	
	家庭科教育学特論Ⅰ	1後	2			○			1	1			兼3	共同	
	英語科教育学特論Ⅰ	1後	2			○		1		1			兼1	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（国語）	1後	2			○			1	1			兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（社会）	1後	2			○		1	1				兼4	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（数学）	1後	2			○		1	1				兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（理科）	1後	2			○		1	1				兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（音楽）	1後	2			○		1		1			兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（美術）	1後	2			○		1					兼4	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（保健体育）	1後	2			○		1	1	2			兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（技術）	1後	2			○		2					兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（家庭）	1後	2			○			1	1			兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅰ（英語）	1後	2			○		1		1			兼3	共同	
	国語科教育学特論Ⅱ	2前	2			○			1	1			兼2	共同	
	社会科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1	1				兼4	共同	
	数学科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1	1				兼3	共同	
	理科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1	1				兼2	共同	
	音楽科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1		1			兼3	共同	
	美術科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1					兼2	共同	
	保健体育科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1	1	2			兼1	共同	
	技術科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		2					兼2	共同	
	家庭科教育学特論Ⅱ	2前	2			○			1	1			兼3	共同	
	英語科教育学特論Ⅱ	2前	2			○		1		1			兼1	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（国語）	2後	2			○			1	1			兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（社会）	2後	2			○		1	1				兼4	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（数学）	2後	2			○		1	1				兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（理科）	2後	2			○			1				兼1	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（音楽）	2後	2			○		1		1			兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（美術）	2後	2			○		1					兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（保健体育）	2後	2			○		1	1	2			兼1	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（技術）	2後	2			○		2					兼2	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（家庭）	2後	2			○			1	1			兼3	共同	
	授業に向けた教材研究Ⅱ（英語）	2後	2			○		1		1			兼3	共同	
小計（40科目）		—	0	80	0	—		9	6	6	0	0	兼30	—	

教育実践研究科目	特別支援教育実践コース	⑥全領域の発展に関する領域																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
----------	-------------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【修了要件】 本専攻に2年以上在学し、所定の46単位以上を修得すること。 【履修方法】 <全コース> ○基礎科目18単位（必修） ○独自テーマ科目6単位（必修） <ミドルリーダー養成コース> ○発展科目8単位以上選択 ※ミドルリーダー養成コース科目から6単位以上選択する ○教育実践研究科目4単位（必修） ※教育実践研究A（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），教育実践研究B（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），特別支援教育実践研究（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）の3つ枠中から1枠（4単位）を選択する。AとBと特別支援教育を混合して選択することはできない。なお、教育実践研究Bを選択できるのは、原則、養護教諭のみとする。また、特別支援教育実践研究を選択できるのは、原則、特別支援学校又は特別支援学級に勤務する教諭のみとする。 ○実習科目10単位（必修） ※実習（ⅠA-1，ⅠA-2，ⅡA，ⅢA）又は、特別支援教育実習（ⅠA-1，ⅠA-2，ⅡA，ⅢA）のどちらか10単位を選択。実習と特別支援教育実習とを混合して選択することはできない。なお、特別支援教育実習を選択できるのは、原則、特別支援学校または特別支援学級に勤務する教諭のみとする。 <学校教育実践コース> ○発展科目8単位以上選択 ※学校教育実践コース科目から6単位以上選択する。 ○教育実践研究科目4単位（必修） ※教育実践研究A（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）または教育実践研究B（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）の2枠の中からどちらか1枠（4単位）を選択する。AとBを混合して選択することはできない。なお、教育実践研究Bを選択できるのは、原則、養護教諭志望者のみとする。 ○実習科目10単位（必修） ※実習（ⅠB-1，ⅠB-2，ⅡB，ⅢB，ⅣB）を履修する。 <教科領域実践コース> ○発展科目8単位以上選択 ※教科領域実践コース科目から6単位以上選択する。 ○教育実践研究科目4単位（必修） ※教育実践研究A（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）を履修する。 ○実習科目10単位（必修） ※実習（ⅠB-1，ⅠB-2，ⅡB，ⅢB，ⅣB）を履修する。 <特別支援教育実践コース> ○発展科目8単位以上選択 ※特別支援教育実践コース科目から6単位以上選択する。 ○教育実践研究科目4単位（必修） ※特別支援教育実践研究（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）を履修する。 ○実習科目10単位（必修） ※特別支援教育実習（ⅠB-1，ⅠB-2，ⅡB，ⅢB，ⅣB）を履修する。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
既設（教育学研究科 教職実践専攻）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 科目	①教育課程の編成・実施に関する領域 教育課程編成をめぐる動向と課題 教育課程の開発と実践	1前 1前	2 2				○ ○		1 2	1 1	1				共同 共同
	②教科等の実践的な指導方法に関する領域 学びの様式と授業づくり 教科領域指導研究	1前 1前	2 2				○ ○		2 3		1				共同 共同
	③生徒指導、教育相談に関する領域 生徒指導の理論的視点と実践的視点 教育相談の理論と方法	1前 1前	2 2				○ ○		1 1	1 1				兼1	共同 共同
	④学級経営、学校経営に関する領域 学校安全と危機管理 教育経営の課題と実践	1前 1前	2 2				○ ○		1 1	1 2					共同 共同
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 教育における社会的包摂 現代の学校と教員をめぐる動向と課題	1前 1前	2 2				○ ○		2 1	1 2					共同 共同
	小計（10科目）	—	20	0	0	—			9	6	1	0	0	兼1	—
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			3	1	0	0	0	兼13	—
発展 科目	②教科等の実践的な指導方法に関する領域 教科領域指導研究（発展）	1後		2			○		4					兼18	共同
	⑥全領域の発展に関する領域 養護実践課題解決研究 特別支援教育の教育課程の実施と評価	1後 1後		2 2			○ ○		2 1	1				兼4 兼1	共同 共同
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			7	1	0	0	0	兼23	—
	①教育課程の編成・実施に関する領域 地域教育課題研究（教育課程編成・ 教材開発）	1後		2			○		4	1					共同
	③生徒指導、教育相談に関する領域 協働的生徒指導のマネジメント	1後		2			○		1	1				兼1	共同
	④学級経営、学校経営に関する領域 学校の地域協働と危機管理 教育法規の理論と実践 学校教育と教育行政	1後 1後 1後		2 2 2			○ ○ ○		1 2 1	2 1 2				兼1	共同 共同 共同
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 教職員の職能成長	1後		2			○		2	2					共同
	⑥全領域の発展に関する領域 学校保健のマネジメント 学校安全と事故防止 養護実践課題解決研究（発展）	1後 1後 1後		2 2 2			○ ○ ○		2 1 3	2 1				兼2 兼2	共同 共同 共同
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			8	6	0	0	0	兼4	—
	②教科等の実践的な指導方法に関する領域 教科領域の理論と実践 地域教育課題研究（授業づくり）	1後 2後		2 2			○ ○		2 3	1 1				兼1	共同 共同
	③生徒指導、教育相談に関する領域 実践的教育相談の課題と展開	2後		2			○		1	1					共同
	④学級経営、学校経営に関する領域 教育実践課題解決研究	1後		2			○		1	1					共同
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 教育における社会的包摂の課題研究	2後		2			○		1	2					共同
	⑥全領域の発展に関する領域 幼児児童教育の理解	2前		2			○			1				兼1	共同
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			5	4	0	0	0	兼2	—

研究 教科 目	教育 実践 科目	教育実践研究法(教育実践研究Ⅰ)			1前	1				○		4	3				共同
		教育実践研究Ⅱ			1後	1				○		9	6	1			共同
		教育実践研究Ⅲ			2前	1				○		9	6	1			共同
		教育実践研究Ⅳ			2後	1				○		9	6				共同
		小計(4科目)			—	4	0	0	—			9	6	1	0	0	0
実 習 科 目	成 績 コ ー ス リ ー ダ ー 養 育	実習ⅠA-1(課題把握)			1前	4				○	9	6	1				共同
		実習ⅠA-2(課題把握)			1前	1				○	8	6					共同
		実習ⅡA(仮説形成)			1後	3				○	9	6	1				共同
		実習ⅢA(課題検証)			2通	2				○	8	6					共同
	小計(4科目)			—	10	0	0	—			9	6	1	0	0	0	—
	教 育 実 践 開 発 コ ー ス	実習ⅠB-1(課題把握)			1前	1				○	9	6	1				共同
		実習ⅠB-2(課題把握)			1前	2				○	8	6					共同
実習ⅡB(仮説形成)			1後	2				○	8	6					共同		
実習ⅢB(課題解決研究)			2前	3				○	8	6					共同		
実習ⅣB(課題解決検証)			2後	2				○	8	6					共同		
小計(5科目)			—	10	0	0	—			9	6	1	0	0	0	—	
合計(43科目)				—	48	36	0	—			9	6	1	0	0	兼38	—
学位又は称号		教職修士(専門職)			学位又は学科の分野				教員養成関係								

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科 教職実践専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	① 教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程編成の思想・構造・原理原則についての理論的理解を実践や事例を交えながら深めるとともに、教育課程編成をめぐる諸課題について考察していく。テキストをもとにしながらも、現在に至るまでの様々な実践や事例についても適宜取り上げつつ、教育課程編成の今後の在り方について議論する。 なお、研究者教員による演習をもとに理論的理解を図りつつ、実践や事例の考察に関しては、実務家教員も関わり、進めていくこととする。 （共同） （16 森本（安川）洋介） 教育課程の理論・思想・歴史・現代的課題全般において、理論的視点から講義・演習を主導する。 （34 大瀬幸治） 教育課程の理論・思想・歴史・現代的課題全般において、学校現場の実情や実践の視点から演習を主導する。	共同
	教育課程編成をめぐる動向と課題		
	教育課程の開発と実践	現行の学習指導要領及び次期の学習指導要領の動向を踏まえ、教育課程研究の現状とその課題、また、教育課程という領域における新しい教育実践上の概念を文献講読等により学び、単元開発や授業デザインのビジョンをもち、再構成することをねらいとする。協働的な演習の中で、理論的な知見を実践と統合しながら検討し、子どもの構成的、活動的、対話的な学習を支援する教育課程デザインについて学ぶ。 なお、全回ともチーム・ティーチングにより行う。 （共同） （28 上野秀人） 教育課程研究の現状とその課題、また、教育課程という領域における新しい教育実践上の概念について、理論的視点から講義・演習を主導する。 （34 大瀬幸治） 教育課程研究の現状とその課題、また、教育課程という領域における新しい教育実践上の概念について、学校現場の実情や実践的視点から助言を行う。	共同
	② 教科等の実践的な指導方法に関する領域	学習指導要領における3つの資質・能力を育てるために必要とされる、授業方法や授業を支える機器（ICT機器等）について、そうした方法や機器を必要とする理念と共にその活用方法について考えていく。また、現場で直面する指導の諸問題について、特に授業での場面に焦点を当て、現状への理解を深めるとともに、対応する力を身につける。現場教員の経験や教育実習での経験を踏まえつつ、経験則による対応を理論的に捉え直す場面を通じて、理解と対応力を深めていく。 なお、全回ともチーム・ティーチングにより行う。 （共同） （16 森本（安川）洋介） 全ての授業においてICTを活用例を紹介すると共に、教育方法学の理論的視点からの演習を実施したり、院生への助言を行う。 （27 中野博之） 研究者教員の立場から、学習指導要領についての理念や授業を支える哲学についての演習を実施したり、院生への助言を行う。 （85 三上雅生） 学校現場の状況や子供の実際の学びの様相を、実務的側面から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
	学びの様式と授業づくり		

③ 生徒指導，教育相談に関する領域	生徒指導の理論的視点と実践的視点	生徒指導を取り巻く諸問題について考えることを通じて，これからの学校現場における生徒指導の在り方について考察する。テキストをもとにしながら，生徒指導について理論的に考察する視点を形成するとともに，それに基づく生徒指導の今日的課題とその在り方について議論する。理論的視点と学校現場における実践的視点とがつながりあう展開を目指し，学校の実情に合わせた理解深化を促すこととする。 なお，全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (3 吉中淳) これからの学校現場における生徒指導の在り方について，心理学的な視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 (33 吉原寛) これからの学校現場における生徒指導の在り方について，教育相談的な視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 (44 古川郁生) これからの学校現場における生徒指導の在り方について，学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
	教育相談の理論と方法	教育相談を取り巻く諸問題について考えることを通じて，これからの学校現場における教育相談の在り方について考察する。テキストをもとにしながら，教育相談について理論的に考察する視点を形成するとともに，それに基づく教育相談の今日的課題とその在り方について議論する。理論的視点と学校現場における実践的視点とがつながりあう展開を目指し，学校の実情に合わせた理解深化を促すこととする。内容に応じて校種別あるいは学部新卒学生，現職教員学生別に演習等を行うこととする。 なお，全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (31 敦川真樹) これからの学校現場における教育相談の在り方について学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 (33 吉原寛) これからの学校現場における教育相談の在り方について理論的な視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
	④ 学級経営，学校経営に関する領域	学校安全と危機管理について，学校安全の成立について物理的・人的環境整備等の基本的視点や危機管理についてのリスクマネジメント・クライシスマネジメントの基本的事項を理解する。その上で，学校事故の対応事例や判例，災害時の対応事例をもとに，学校安全の在り方や危機管理について，チーム学校としての教職員の役割や協働的機能について討議や事例検討を通して考察する。 なお，全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (26 小林央美) 学校安全と危機管理について研究者教員の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 (30 中谷保美) 学校安全と危機管理について学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同

		教諭の立場から組織管理を捉えとともに、学校での現状と課題を現場における実務演習を通して把握する。さらに、ケーススタディー、ワークショップ、意見発表、討論等を通じて、双方向の学び合いを重視し、学校における質の高い組織管理のための具体的方策を探り、個々の学校課題解決力の深化を図る。 なお、今回ともティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (17 桐村豪文) 学校における質の高い組織管理について、研究者教員の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (44 古川郁生) 学校における質の高い組織管理について学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
⑤ 学校教育と教員の在り方に関する領域	教育における社会的包摂	貧困や虐待など様々なリスクのもとにある子ども・若者の現状と彼らに対する支援の在り方について、〈教育一福祉〉を視点として学ぶ。さらに、社会的包摂についての基本的理論的理解とともに、子ども・若者の現状と支援の在り方について学ぶ。なお、実務家教員が主となり演習を進め、適宜、研究者教員が理論的意味付け等を行うこととする。また、福祉・司法・労働などの分野のゲストスピーカーを招聘し、講話に基づく議論を行う。(いじめ問題も扱う) (共同) (1 福島裕敏) 「教育の社会的包摂」について、より広い社会的文脈を踏まえ、理論的視点から演習に關与する。 (32 吉田(宮平)美穂) 「教育の社会的包摂」、とりわけ様々なリスクのもとにある子どもに対する支援について、理論的かつ実践的視点から演習を主導する。	共同
	現代の学校と教員をめぐる動向と課題	教育を取り巻く諸問題を教育の社会性という視点から考えることを通じて、これからの学校教育と教員の在り方について考察する。また、テキストに基づき、教育問題を理論的に考察する視点を形成するとともに、学校教育と教育の在り方について議論する。 なお、今回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングで行うが、研究者教員が主となり演習を進め、適宜、実務家教員が学校教育と教員の実情に合わせた理解深化を促すこととする。 (共同) (1 福島裕敏) これからの学校教育と教員の在り方について、理論的視点から演習を主導する。 (32 吉田(宮平)美穂) これからの学校教育と教員の在り方について、実践的な視点から演習に關与する。	共同

独自テーマ科目	あおもりの教育Ⅰ（環境）	次世代の青森県を支える人材を育成の観点から、青森県の抱える自然・社会環境面での地域課題について様々な視点から理解し、学校教育の場面や地域の活性化に活かす方向性について理解を深め、今後の青森県の環境を活かした地域産業活性化の方向性を探る。 各回の授業は、教育学研究科の枠を超えた教員チーム（オール弘前大学体制）から専門的知見を学んだ上で、学校現場での教科指導・総合的な学習の時間・特別活動等の多様な場面を想定し、次世代の青森県を担う人材の育成のためには各テーマをどのように深めるかの討議を行いながら進める。 （共同／全15回） （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史／7回） オール弘前大学体制で行う本授業の全回において、各教員による専門分野の学習について授業の到達目標を達成できるようコーディネートすると共に教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，47 小岩直人／2回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県の自然環境について自然地理学の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，57 石川幸男／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県で唯一世界遺産に登録されている白神山地の植物について専門家の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，58 李永俊／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県の社会経済環境について経済学の専門の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，69 井岡聖一郎／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県の再生可能エネルギー資源についての専門家の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，70 久保田健／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県の再生可能エネルギー資源についての専門家の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，71 中村剛之／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県で唯一世界遺産に登録されている白神山地の動物について専門家の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （37 篠塚明彦，43 瀧本壽史，83 佐々木実／1回） 環境教育のための基礎的事項の中で、特に青森県の自然環境について地学の専門の視点及び教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
---------	--------------	--	----

あおもりの教育Ⅱ（健康）	次世代の青森県を支える人材育成の観点から、青森県の地域課題である健康問題やこころの発達発達について様々な視点から理解し、学校教育や地域への貢献に活かす方向性について考察する。青森県の抱える「短命県」という健康課題の多様な要因とその解決について、最新の研究成果、課題解決に向けた学校と地域がチームで行う取り組みの実践、健康生活成立の要因、臨床医学と教育学の双方からこころの発達課題への対応などについて多角的に学び、学校現場での多様な場面を想定した健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項について深めていく。 （共同／全15回） （28 上野秀人，52 戸塚学／2回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に児童生徒期の運動実態と運動の在り方について運動学的側面（健康と体力）からの学習の視点、及び、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （28 上野秀人，84 沢田かほり／4回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に短命県である青森県の生活習慣病の実態とその背景、改善に向けた取り組みについて医学的な視点、及び、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （28 上野秀人，74 栗林理人／2回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特にこころの健康とインクルーシブ教育の在り方について精神医学的な視点、及び、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （21 益川満治，28 上野秀人，74 栗林理人／2回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特にこころの健康とインクルーシブ教育の在り方について精神医学的な視点、及び、児童生徒期の運動実態と運動の在り方について体育学的側面（健康と心理、行動変容の視点、そして、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （21 益川満治，28 上野秀人／1回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に、児童生徒期の運動実態と運動の在り方について体育学的側面（健康と心理、行動変容の視点、及び、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （28 上野秀人，73 前多隼人／1回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に、生活習慣病予防・改善の食生活の在り方について食品栄養化学的視点、及び、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （28 上野秀人，72 伊藤大雄，73 前多隼人／1回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に、生活習慣病予防・改善の食生活の在り方について食品栄養化学的視点、及び、健康課題解決のための食生活の改善に向けて研究成果の視点、そして、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （28 上野秀人，52 戸塚学，72 伊藤大雄，73 前多隼人／1回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項の中で、特に、生活習慣病予防・改善の食生活の在り方について食品栄養化学的視点、及び、健康課題解決のための食生活の改善に向けて研究成果の視点、そして、児童生徒期の運動実態と運動の在り方について運動学的側面（健康と体力）からの視点、さらには、教材開発の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （21 益川満治，28 上野秀人，52 戸塚学，74 栗林理人，84 沢田かほり／1回） 健康教育の教材開発や授業づくりの基礎的事項について、本演習で学んだことを省察し、今後の教育活動に活かせるように院生への助言を行う。	共同
---------------------	--	-----------

発展科目	ミドルリーダー養成科目		インクルーシブ教育システムの理論と課題	インクルーシブ教育システムの理念と制度改革について理解を深めるとともに、現代の学校や社会における差別や排除について考える。また、日本のこれからのインクルーシブ教育システムの方向性と実現を可能にする各種要因を考察する。自校の教育活動及び児童生徒の実態を考慮して、実現可能なインクルーシブ教育システム構築のための具体的な方策を検討する。 なお、全回とも講義・演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングにより授業を行う。 (共同) (29 菊地一文) インクルーシブ教育システムの理念と制度改革及び日本のこれからのインクルーシブ教育システムの方向性と実現を可能にする各種要因について理論的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システムの理念と制度改革及び日本のこれからのインクルーシブ教育システムの方向性と実現を可能にする各種要因について学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		① 教育課程の編成・実施に関する領域	地域教育課題研究 (教育課程編成・教材開発)	基礎科目「教育課程編成をめぐる動向と課題」及び「教育課程の開発と実践」での学びと、独自テーマ科目「あおもりの教育Ⅰ(環境)」及び「あおもりの教育Ⅱ(健康)」での学びを基に展開する。また、青森県の課題であるインクルーシブ教育を含めた教育における社会的な包摂についても扱っていくものとする。本科目は、青森県の課題について、その解決にむけて勤務校での教育課程に位置付けていける力や、他の同僚教師とともに活用することを可能とするような教材開発へと展開させていく力を培っていく。 なお、全回ともチーム・ティーチングで行う。 (共同) (28 上野秀人) 青森県の課題の解決にむけた取組について理論的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (35 土岐賢悟) 青森県の課題の解決にむけた取組について義務教育での学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (43 瀧本壽史) 青森県の課題の解決にむけた取組について県立学校での現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		③ 生徒指導、教育相談に関する領域	協働的生徒指導のマネジメント	基礎科目「生徒指導の理論的視点と実践的視点」での学びを発展させ、校内・校外の各種資源との連携をコーディネートしながら生徒指導活動を展開していく方法について考える。今日的な教育問題の解決と、児童生徒の自己指導力の伸展に向けた具体的方法について議論し、そのマネジメントについて理解を深める。また、学校全体の生徒指導活動の底上げにつながる実践的方法についても考察する。 なお、全回とも研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングで行う。 (共同) (3 吉中淳) 今日的な教育問題の解決と児童生徒の自己指導力の伸展に向けたマネジメントについて心理学的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (33 吉原寛) 今日的な教育問題の解決と児童生徒の自己指導力の伸展に向けたマネジメントについて教育相談的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (44 古川郁生) 今日的な教育問題の解決と児童生徒の自己指導力の伸展に向けたマネジメントについて学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

④ 学級経営，学校経営に関する領域	学校の地域協働と危機管理	学校安全が対象とする生活安全，交通安全，防災（災害安全）の3領域のうち，特に地震などの自然災害における防災と危機管理に焦点を当てて学校の地域協働と危機管理について学ぶ。基礎科目「学校と危機管理」で学んだ学校安全と危機管理を活用し，発災時を想定しながら，学校や教員の果たす役割と地域協働の在り方について，これまでの教職経験での課題やヒヤリハットの分析，先進的事例の分析，危機管理体制の策定などを通して学ぶ。 なお，全回ともティーム・ティーチングで行う。 （共同） （26 小林央美） 学校の地域協働と危機管理について，研究者教員の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （30 中谷保美） 学校の地域協働と危機管理について，学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
	教育法規の理論と実践	今日の教職員の実務に関わる様々な問題を取り上げ，①教育現場で生じうる問題について，法的に考え，判断し，行動する法的思考力（リーガル・マインド），②法令及び判例等の法的情報を探し出し，正しく読み解く法的調査力（リーガル・リサーチ），③スクール・コンプライアンスを周知・徹底する法的表現力（リーガル・プレゼンテーション）の視点から考察し，スクール・コンプライアンス（学校の法令遵守）の担い手として実践的な対応についての理解を深める。 （共同） （17 桐村豪文） 教育経営，教育行政の法的な側面に関して，教育行政の理論的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （43 瀧本壽史） 教育経営，教育行政の法的な側面に関して，学校現場の状況や教育行政の実務的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
	学校教育と教育行政	今日に至る教育改革の変遷を，時代背景とともに踏まえ，教育行財政がどのように教育改革を推進してきたのかを理解する。その上で，学校経営の改革にとって必要な教育行政の視座とは何であるのか，様々な事例分析を通して考察し，今後の学校経営や教育改革を支える教育行政のあるべき姿を探る。 なお，全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行い，理論的な考察については研究者教員が，学校現場や教育行政の現状などの考察については実務家教員が，それぞれ主導する。 （共同） （17 桐村豪文） 教育行財政がどのように教育改革を推進してきたのか，学校経営の改革にとって必要な教育行政の視座とは何であるのかについて理論的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （44 古川郁生） 教育行財政がどのように教育改革を推進してきたのか，学校経営の改革にとって必要な教育行政の視座とは何であるのかについて学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同

	⑤ 学校教育 と教員 の在り 方に関 する領 域	教職員の職能成長	今日における教員の職能成長を取り巻く状況とその在り方について、様々なレベル（個人・学校・教育行政）、あるいは多様な視点（教育社会学、教師教育、教育行政、ライフコース研究など）から、「学び続ける教師」を支える体制づくりについて考察する。テキストや参考文献をもとにしながら、教員の職能成長についての理論的考察を踏まえ、教員の職能成長をめぐる今日の課題とそれを支える校内研修や行政研修などの体制づくりについて議論する。 なお、全回とも研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングにより行う。 （共同） （1 福島裕敏） 「学び続ける教師」を支える体制づくりについて研究者教員の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 「学び続ける教師」を支える体制づくりについて、学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行ったりする。	共同
	⑥ 全領域 の発展 に関す る領域	学校保健のマネジメン ト	学校保健計画を立案するとともに、その実施の推進を行う上で必要な制度・関係法規等について理解を深め、その上で、実践に向けた具体的方策を学ぶ。また、学校保健活動を円滑に行うため、教諭、養護教諭、栄養教諭のみならず地域の専門家等との協働など、学校全体を見据えた体制や条件整備、校内研修を含めた課題解決の在り方について考察をする。これらを通じて、学校保健のマネジメント機能を高めるための管理職と若手教員を繋ぐミドルリーダーの在り方について学校経営的側面及び実務的側面から考察する。 （共同） （26 小林央美） 養護実践の基軸となる養護学の視点から、本授業の全回を担当する。また、研究者教員の立場から、本授業の到達目標を達成できるようなコーディネートを担当する。 （85 三上雅生） 学校保健のマネジメントに関する考察において、実務的側面から演習を主導する。	共同
		学校安全と事故防止	食物アレルギーの問題・慢性疾患・薬物乱用・性の逸脱行為と妊娠やデートDV・自傷行為・自殺企図・重大な学校事故等の児童生徒の生命の危険のかかわる現代的な教育課題の状況とその背景や、その課題特性について理解を深め考察する。また、それらの課題特性を踏まえた危機対応やその予防的対応の在り方について、学校のエデュケーション機能と医学的対応の視点等について理論的・実践的に考察する。その上で、学校全体の学校安全と事故防止機能を高めるために、ミドルリーダーとしての学校や専門機関、地域を巻き込んだ解決への取り組み、校内研修の在り方について議論する。 （共同／全15回） （26 小林央美，30 中谷保美，74 栗林理人／3回） 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、自傷行為や自殺に関する精神医学的視点、さらに、学校管理職の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （4 田中完，26 小林央美，30 中谷保美／3回） 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、食物アレルギーや慢性疾患を持つ児童生徒に関する医学的視点、さらに、学校管理職の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （26 小林央美，30 中谷保美／9回） 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、学校安全と事故防止についての学校管理職の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。。	共同

		「養護実践課題解決研究」での学習を踏まえ、心身の健康に関する現代的課題について、地域を巻き込んだ解決への取り組みの知見を自らの教職経験に基づいて深化させる。その際、当該課題について高い見識を有する地域の専門家との連携の視点から、ミドルリーダーとして協働的対応の役割を具体的な事例を通して実務的に学ぶ。また、学校の教育機能と児童生徒の社会性、発育発達特性、医学的視点等、多様な視点から理論及び実践的対応について考察する。 (共同／全15回) (3 吉中淳, 26 小林央美／8回) 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、心身の健康に関する現代的課題の解決の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 (26 小林央美, 74 栗林理人／6回) 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、心身の健康に関する精神医学的視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 (3 吉中淳, 26 小林央美, 74 栗林理人／1回) 養護実践の基軸となる養護学の視点、及び、心身の健康に関する精神医学的視点、そして、心理学的視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
学部 新卒 学生 共通 科目	② 教科 等の 実践 的な 指導 方法 に関 する 領域	学校における教職経験を十分に持たない受講者を対象とし、学校フィールド実習で行う実践授業のための教材研究を協働で行ったり、授業方法について協働で検討したりすることを通して、実習の進め方・実習結果の検証方法等について、具体的な事例に基づき考察する。また、模擬授業とその授業に対する検証を行い、「授業づくりー実践ー省察検証ーフィードバック」のサイクルを今後のよりよい授業づくりに生かすことができるようにする。 なお、全回ともチーム・ティーチングにより行う。 (共同) (16 森本(安川) 洋介) 授業づくりについて、教育方法学の理論的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (27 中野博之) 授業づくりについて、理系科目の特質についての視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (85 三上雅生) 授業づくりについて、文系科目の特質についての視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
	道徳の理論と授業実践のあり方	道徳教育の歴史的背景と理論的な背景を踏まえ、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」に関する理解・考察を行うとともに、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングにより行う。 (共同) (16 森本(安川) 洋介) 道徳の授業の在り方について、研究者教員の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (85 三上雅生) 道徳の授業の在り方について、学校での実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

			総合的な学習の カリキュラム開発演習	「総合的な学習の時間」および生活科（以下、「総合・生活」と呼称する。）のカリキュラム開発能力を育成するために、その背景となる学習理論を学び、具体的な地域を想定して、カリキュラム開発を模擬的に行う。また、全回とも演習を基本とし、様々な教科の教員が合科的に関わりながら、多角的な視点からカリキュラムを作成できるように指導をする。 なお、15回全ての授業に美術科・技術科・家庭科・理科・歴史・地理等について研究をしている教育学部の教員を招聘しそれぞれの観点から「総合・生活」の題材及びカリキュラム開発についての授業を行うことで全ての授業をティーム・ティーチングの形式の授業形態をとる。 （共同） (36 宮崎充治) 「総合的な学習の時間」および生活科のカリキュラム開発について理論的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 （38 上之園哲也） 「総合的な学習の時間」および生活科のカリキュラム開発について、学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		④ 学級経営， 学校経営に 関する領域	教育実践課題解決研究	学級経営や生徒指導についての対応策を協議することを通して、学級経営の基礎的事項及び技術を事例とともに学習する。主として、教職に対する社会的要請と法令理解を踏まえ、学級・学年経営，生徒指導，学校行事，地域連携，子ども理解について取り上げる。また，保護者や地域と協力・連携した学級づくり，学年運営，生徒指導などについても理解を深める。 なお，全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングで行う。 （共同） (30 中谷保美) 学級経営や生徒指導について小学校教諭の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （36 宮崎充治） 学級経営や生徒指導について理論的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （44 古川郁生） 学級経営や生徒指導について中学校・高校教諭の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
発展科目	学校教育実践 コース科目	① 教育課程の 編成・実施に 関する領域	教育・社会理論と教育 実践	「知識基盤社会」「社会に開かれた教育課程」「学び続ける教員像」「チームとしての学校」等の現代教育課題に関わる教育理論・社会理論を踏まえながら，今日あるいはこれからの教育実践，学校・教員の在り方について考察する。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 （共同） (1 福島裕敏) 教育実践，学校・教員の在り方について，教育社会学の研究的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （17 桐村豪文） 教育実践，学校・教員の在り方について，教育経営の研究的視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育実践，学校・教員の在り方について，教育社会学の研究的視点及び学校の実情や実践的な視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同

		② 教科等の実践的な指導方法に関する領域	地域教育課題研究 (授業づくり)	青森県の課題を扱った独自テーマ科目での学習を基に、青森県が抱える「健康教育」「環境教育」「インクルーシブ教育」についての教育課題の解決の一助となる授業の在り方について、具体的な授業づくりや授業実践を通して考えていく。具体的には、学習指導案作成に取り組み、模擬授業を行う。その上で、附属学校での授業実践及び省察を行い、その教材及び授業の成果と課題を明らかにする。 なお、全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (28 上野秀人) 青森県の教育課題解決の一助となる授業の在り方について、研究者教員の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (35 土岐賢悟) 青森県の教育課題解決の一助となる授業の在り方について、義務教育の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (43 瀧本壽史) 青森県の教育課題解決の一助となる授業の在り方について、県立学校の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		③ 生徒指導，教育相談に関する領域	実践的教育相談の課題と展開	基礎科目「教育相談の理論と方法」での学びを発展させ、効果的に活動を展開していく方法や、教員の役割について考える。また、今日的な教育問題の解決と、児童生徒の適応促進に向けた具体的方法について議論し、理解を深める。ここで学ぶ理論的視点が学校現場における視点とつながり、学校全体における教育相談活動が効果的に行われるための実践的方法を探索・開拓する。 なお、全回とも研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングで行う。 (共同) (2 田名場忍) 実践的教育相談について、臨床心理の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (33 吉原寛) 実践的教育相談について、学校の実情や実践的な視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		⑤ 学校教育と教員の在り方に関する領域	教育における社会的包摂の課題研究	基礎科目「教育における社会的包摂」及び「インクルーシブ教育の理論と課題」での学びを基に展開される科目であり、様々な立場の教職員がチーム学校として協働しながら、学校における社会的包摂を実現していくために必要なことを考える科目である。この科目では、障害、貧困、不登校及び外国籍など特別な教育的ニーズを抱える子どもに主眼を置き、学校現場での具体的場面を想定しながら、学級担任・養護教諭・教科担当・支援員・特別支援コーディネーター等のそれぞれの役割を意識した支援の在り方を考える。 各回の授業は、近隣の学校、適応指導教室、学習支援教室等の参観、それに向けた準備、参観を踏まえた省察とそれに基づく検討、関係機関の担当者をゲストスピーカーとして招聘して行う福祉と教育の連携に関わる演習とで構成される。 (共同) (32 吉田(宮平)美穂) 学校における社会的包摂を実現していくために必要なことについて、教育社会学の視点及び学校の実情や実践的な視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (33 吉原寛) 学校における社会的包摂を実現していくために必要なことについて、教育相談の視点及び生徒指導の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

⑥ 全領域の発展に関する領域	教育心理学特論	教育心理学における代表的および先進的な既存研究を基に、その理論的・方法論的背景を踏まえた上で、児童生徒や保護者等を支援し、育む教師の実践のあり方について、事例検討等を通して考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。 (共同) (2 田名場忍) 臨床心理及び教育相談の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (3 吉中淳) 臨床心理及び生徒指導の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (25 吉崎聡子) 教育心理の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
	養護実践課題解決研究	「あおもりの教育Ⅱ（健康）」での学習を踏まえ、学校における健康課題の解決について、養護教諭と教諭の協働を通じた取り組みの意義、組織体制、校内研修等のあり方、そして地域との協働のあり方等について実務的な側面から広く考察する。また、養護の概念や機能の理解を基盤として、養護実践の内容・方法に関する基礎的理論について理解を深める。さらに、キャリアステージに応じて健康課題解決の実践について「チーム学校」の一員としての取り組みのあり方等、様々な視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (5 葛西敦子, 26 小林央美／2回) 養護実践課題解決研究における課題の発見、分析と実践の検討及び課題解決に向けたミドルリーダーや養護実践のこれからの展望において、保健医科学を担当する研究者教員の看護的視点、及び養護の実践の基軸となる養護学の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (19 原郁水, 26 小林央美／2回) 養護実践課題解決研究における課題の発見、分析と実践の検討及び課題解決に向けたミドルリーダーや養護実践のこれからの展望において、養護教育学の視点、及び、学校保健及び保健教育的視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (26 小林央美, 39 新谷ますみ／11回) 養護の実践の基軸となる養護学の実務家教員の視点から、及び、研究者教員の視点から健康課題の解決についての演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
	幼児児童教育の理解	学校教育の今日的課題のひとつである幼稚園から小学校への教育実践の円滑な接続のために、接続期の教育の計画・指導について議論する。テキストや参考文献を活用すると共に、接続期の小学校の授業や年長の保育を見学し検討することで、幼児期及び児童期の発達と学びの連続性に関する理解を深め、それぞれの学校段階での教育の相違について学ぶ。また、学びの総括として幼児期の教育に関する理論を踏まえたスタートカリキュラムを作成・検討に取り組むことで、学びの連続性を保障するカリキュラムと実践の在り方についても考察する。 なお、全回ともティーム・ティーチングで行う。 (共同) (11 武内裕明) 接続期の教育の計画・指導について、教育学の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (18 野寄茉莉) 接続期の教育の計画・指導について、発達心理学の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

学校保健の協働的展開	学校における学校保健の協働的展開について、学校現場における実際の展開事例の分析や先行研究を基に、今日的な教育課題や健康課題の解決につながる「学校保健の協働的展開のあり方・考え方・実践」について、様々な視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (26 小林央美, 39 新谷ますみ／12回) 養護の実践の基軸となる養護学の視点から、学校保健の協働的展開についての理論と実践に関わる演習を実施したり院生への助言を行ったり。 (4 田中完, 26 小林央美／1回) 保健医科学を担当する研究者教員の小児保健学的視点、及び、養護の実践の基軸となる養護学の視点から学校保健の協働的展開についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (19 原郁水, 26 小林央美／1回) 養護の実践の基軸となる養護学の視点、及び、養護教育学を担当する研究者教員の学校保健及び保健教育の視点から、学校保健の協働的展開についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (4 田中完, 19 原郁水, 26 小林央美, 39 新谷ますみ／1回) 学校保健の様々な協働的展開について理論と実践について、研究者教員及び実務家教員の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
養護教諭の行う健康相談の理論と実践	養護教諭が行う健康相談について、健康相談の実際の展開事例の分析や先行研究を基に、今日的な教育課題や健康課題の解決につながる「養護教諭が行う健康相談のあり方・考え方・実践」について、様々な視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (19 原郁水, 26 小林央美／2回) 養護教育学を担当する研究者教員の学校保健及び保健教育的視点、及び、養護の実践の基軸となる養護学の視点から養護教諭の行う健康相談についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (26 小林央美, 39 新谷ますみ／13回) 養護の実践の基軸となる養護学の視点から養護教諭の行う健康相談についての演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

			学校における救急処置活動について、救急処置活動の実際の展開事例の分析や先行研究を基に、今日的な教育課題や健康課題の解決につながる「学校における救急処置活動のあり方・考え方・実践」について、様々な視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (26 小林央美, 39 新谷ますみ／12回) 養護の実践の基軸となる養護学の視点から学校における救急処置活動についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (5 葛西敦子, 26 小林央美, 39 新谷ますみ／1回) 保健医科学を担当する研究者教員の看護学的視点、及び、養護の実践の基軸となる養護学の視点から学校における救急処置活動についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (4 田中完, 26 小林央美, /1回) 保健医科学を担当する研究者教員の小児保健学的視点、及び、養護の実践の基軸となる養護学の視点から学校における救急処置活動についての演習を実施したり院生への助言を行う。 (4 田中完, 5 葛西敦子, 26 小林央美, 39 新谷ますみ／1回) 保健医科学を担当する研究者教員の看護学的視点、及び、養護の実践の基軸となる養護学の視点、そして、保健医科学を担当する研究者教員の小児保健学的視点から学校における救急処置活動についての演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
発展科目	教科領域実践コース	②教科等の実践的な指導方法に関する領域	国語教育研究史における代表的な文献を基に、理論的に国語教育について学び、それを踏まえて、今日的な国語教育の課題について考察するとともに、実践のあり方を検討する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (20 鈴木(竜田)愛理, 45 山田史生／7回) 文学教育及び漢文の知見から講義・演習を行う。 (40 田中拓郎, 46 吉田比呂子／7回) 説明的文章教育と古典分野を中心に講義・演習を行う。 (20 鈴木(竜田)愛理, 40 田中拓郎／1回) 今日的な国語教育の課題と実践の在り方について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

		社会科教育学特論Ⅰ	社会科教育の歴史的背景と代表的な先行実践を基に理論的な背景を踏まえ、現在の社会科の教育実践の動向や人文科学・社会科学の研究動向から社会科教育の今日的な課題を析出・考察し、実践的課題についての理解を深める。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人／3回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について、自然地理学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 48 高瀬雅弘／3回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について、社会学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 75 蒔田純／3回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について、政治学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 76 大谷伸治／3回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について、歴史学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人, 48 高瀬雅弘, 75 蒔田純, 76 大谷伸治／1回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について、学校教育の実情を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦／2回) 社会科教育の今日的課題の析出・考察について理論的視点と学校の実情から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		数学科教育学特論Ⅰ	算数・数学教育の歴史的背景と代表的な先行研究を基に理論的な背景を踏まえ、算数・数学教育の今日的な課題である「数学的な見方・考え方」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。また、15回中8回は教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (13 田中義久, 77 上山健太／3回) 代数学の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (27 中野博之, 60 山本稔／3回) 幾何学の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (13 田中義久, 82 吉川和宏／1回) 確率統計の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (27 中野博之, 82 吉川和宏／1回) 確率統計の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (13 田中義久, 27 中野博之／7回) 数学的な見方・考え方についての理論、及び、教材研究や授業研究という実践面について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

理科教育学特論Ⅰ	理科教育およびそれに関する学問領域の理論について討論・解説を行い、最近の理科教育の動向との関わりを追究するとともに、実践のあり方を授業研究の視点から考察する。なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (14 佐藤崇之, 49 長南幸安／8回) 理科教育の理論や現代的な動向および授業研究の手法について、並びに、学問領域（化学）の観点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (14 佐藤崇之, 61 佐藤松夫／7回) 理科教育の理論や現代的な動向および授業研究の手法について、並びに、学問領域（物理学）の観点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
音楽科教育学特論Ⅰ	演習を通して、現在の音楽教育が抱える諸問題について議論する中で、理論的な背景を踏まえながら、これからの音楽科教員として必要な資質向上のための技法と理念について考察を深めていく。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (6 杉原かおり, 42 清水稔, 50 今田匡彦／4回) 音楽科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と、哲学的な考察によって教科教育における理論的な助言を行うとともに、サウンドスケープや創作等の実践的な演習を実施したり、院生への助言を行う。 (6 杉原かおり, 42 清水稔, 78 朝山奈津子／4回) 音楽科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と、音楽史及び楽曲の分析等の視点から、現在の音楽教育が抱える諸問題の解決に必要な視点について演習を実施したり、院生への助言を行ったりする (6 杉原かおり, 42 清水稔, 86 和田 美亀雄／3回) 音楽科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と、器楽指導の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (6 杉原かおり, 42 清水稔／4回) 音楽科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と技術の習得について学校現場の実情や実践的な視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

美術科教育学特論 I	図画工作・美術教育の理論的な背景を踏まえ、図画工作・美術教育の今日的な課題である「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方について、教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (51 蝦名敦子, 64 佐藤光輝／5回) 「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、平面表現、デジタル表現における実践のあり方について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 51 蝦名敦子／2回) 「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、立体造形表現における実践のあり方について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 51 蝦名敦子, 65 富田晃／1回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、立体造形表現における実践のあり方について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 65 富田晃／2回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、立体造形表現における実践のあり方について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (65 富田晃, 66 出佳奈子／5回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、鑑賞における実践のあり方について、演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
保健体育科教育学特論 I	保健体育教育の歴史的背景と代表的な先行研究を基に理論的な背景を踏まえ、保健体育教育の今日的な課題と実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチング、または、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (15 高橋俊哉, 28 上野秀人／5回) 保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方・考え方について理論と教材研究や授業研究という実践面について、及び、学校保健の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (21 益川満治, 28 上野秀人／5回) 保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方・考え方について理論と教材研究や授業研究という実践面について、及び、体育学の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (22 杉本（佐藤）和那美, 52 戸塚学／5回) 保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方・考え方について理論と教材研究や授業研究という実践面について、及び、運動学の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

技術科教育学特論Ⅰ	技術教育の歴史的変遷と代表的な先行研究を基にした理論的な背景を踏まえ、技術科教育の今日的な課題である「技術による持続可能な社会を構築するための資質・能力」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (8 櫻田安志, 38 上之園哲也／7回) 電気情報分野における技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について、及び、技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 67 勝川健三／4回) 生物育成分野における技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について、及び、技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 79 廣瀬孝／4回) 材料加工分野における技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について、及び、技術教育の歴史的変遷・理論的背景・今日的課題全般について演習を実施したり、院生への助言を行う。理論的視点から演習に関わる。	共同
家庭科教育学特論Ⅰ	社会の変化に対応した家庭科の授業を行うために、家庭科教育の変遷を知り、代表的な先行研究に基づく理論的な背景を踏まえ、家庭科教育の今日的な課題である「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる実践のあり方を、授業研究の視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、実務家教員と研究者教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 54 北原啓司／3回) 家庭科に関する学問領域（住居学）の観点から、住生活に関わる授業研究について、及び、家庭科教育の理論や代表的な授業研究の手法の全般について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 55 安川あけみ／3回) 家庭科に関する学問領域（被服学）の観点から衣生活に関わる内容について、及び、家庭科教育の理論や代表的な授業研究の手法の全般について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 68 李秀眞／3回) 家庭科に関する学問領域（家庭経営学）の観点から、家族や家庭生活に関わる内容について、及び、家庭科教育の理論や代表的な授業研究の手法の全般について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子／6回) 家庭科教育の理論や代表的な授業研究の手法の全般について、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

			教室第二言語習得研究並びに外国語教育学で得られた知見を基に、児童・生徒の英語コミュニケーション能力の発達を促す指導法、教授学習活動及び評価について授業設計の視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同) (9 Rausch Anthony Scott) コミュニケーション研究の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (24 佐藤剛) 学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (56 野呂徳治) 言語習得の過程の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
		授業に向けた教材研究 I (国語)	教科書等に取り上げられている代表的な教材について、その教材における学問的背景を考察することを通して、教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (20 鈴木 (竜田) 愛理, 45 山田史生／7回) 文学教育及び漢文の知見から講義・演習を行う。 (40 田中拓郎, 46 吉田比呂子／7回) 説明的文章教育と古典分野を中心に講義・演習を行う。 (20 鈴木 (竜田) 愛理, 40 田中拓郎／1回) 国語教育の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
		授業に向けた教材研究 I (社会)	社会科学の教材について、その教材の基盤にある人文科学・社会科学の最新研究成果についての理解を深め、その理解を基に社会科学の教材研究のあり方や資料へのアクセスなどを含む教材研究の方法について再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人／3回) 社会科学における教材研究の方法について、自然地理学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 48 高瀬雅弘／3回) 社会科学における教材研究の方法について、社会学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 75 蒔田純／3回) 社会科学における教材研究の方法について、政治学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 76 大谷伸治／3回) 社会科学における教材研究の方法について、歴史学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人, 48 高瀬雅弘, 75 蒔田純, 76 大谷伸治／1回) 社会科学における教材研究の方法について、学校教育の実情を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑶史朗, 37 篠塚明彦／2回) 社会科学における教材研究の方法について理論的視点と学校の実情から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究 I (数学)	学習指導要領にある算数数学の教材について、その教材の背景にある数理の考察を通して数学的な見方・考え方を経験し、その経験を基に算数数学の教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。また、15回中7回は教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (27 中野博之, 60 山本稔／4回) 幾何学の視点、及び、小学校の算数科の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (60 山本稔, 77 上山健太／3回) 幾何学の視点、及び、代数学の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (60 山本稔, 77 上山健太, 82 吉川和宏／1回) 幾何学の視点、及び、代数学の視点、さらには確率統計の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (77 上山健太, 82 吉川和宏／4回) 代数学の視点、さらには確率統計の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (13 田中義久, 82 吉川和宏／3回) 中学校・高等学校の数学科の視点及び確率統計の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究 I (理科)	学習指導要領の理科（小学校A区分、中学校第1分野）の教材について、科学的な見方・考え方を実感できる理学的内容を経験し、その経験から理科の教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (10 山本逸郎, 14 佐藤崇之／4回) 理科における科学的な見方・考え方および教材研究のあり方、及び、理科に関係する学問領域（物理学）の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (14 佐藤崇之, 49 長南幸安／4回) 理科における科学的な見方・考え方および教材研究のあり方、及び、理科に関係する学問領域（化学）の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (14 佐藤崇之, 61 佐藤松夫／4回) 理科における科学的な見方・考え方および教材研究のあり方、及び、理科に関係する学問領域（物理学）の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (14 佐藤崇之, 63 島田透／3回) 理科における科学的な見方・考え方および教材研究のあり方、及び、理科に関係する学問領域（化学）の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究 I (音楽)	音楽科における題材や教材について、理論や先行研究等を通して考察するとともに、学校教育における諸問題を解決するためのカリキュラムの構築や題材設定のための技能の向上と理念の育成を図る。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (6 杉原かおり, 42 清水稔, 50 今田匡彦／4回) 教科教育における実技の技法及び理論的な視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり、院生への助言を行う。 (6 杉原かおり, 42 清水稔, 78 朝山奈津子／4回) 教科教育の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と、音楽史及び楽曲の分析等の視点から、現在の音楽教育が抱える諸問題の解決に必要な視点について各院生の研究主題を基に演習を実施したり、院生への助言を行ったりする (6 杉原かおり, 42 清水稔, 86 和田 美亀雄／3回) 教科教育の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と、器楽指導の視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり、院生への助言を行う。 (6 杉原かおり, 42 清水稔／4回) 教科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と技術の習得について学校現場の実情や実践的な視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究 I (美術)	学習指導要領にある図画工作・美術の教科内容について、表現と鑑賞の実践的考察を通して「造形的な見方・考え方」を理解し、その体験を基に図画工作・美術の教材化を検討する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (51 蝦名敦子, 64 佐藤光輝／5回) 「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、平面表現、デジタル表現における実践のあり方について、教科内容の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 51 蝦名敦子／2回) 「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、立体造形表現における実践のあり方について、教科内容の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 51 蝦名敦子, 65 富田晃／1回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方、及び、立体造形表現における実践のあり方について、教科内容の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (7 塚本悦雄, 65 富田晃／2回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、立体造形表現における実践のあり方について、教科内容の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (65 富田晃, 66 出佳奈子／5回) 「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び、鑑賞における実践のあり方について、教科内容の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究 I (保健体育)	学習指導要領にある保健体育の教材について、最新の知見をもとに各領域ごとの特性を学ぶとともに、保健と体育を関連させた指導、発達段階に応じた指導、指導内容の系統性についても学習する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングまたは教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (15 高橋俊哉, 28 上野秀人／2回) 武道の教材研究や授業研究の視点、及び、保健体育的な見方・考え方の視点、さらには、球技の教材研究や授業研究の視点について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (21 益川満治, 28 上野秀人／4回) ダンスの教材研究や授業研究の視点、及び、保健体育的な見方・考え方の視点、さらには、球技の教材研究や授業研究の視点について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (22 杉本 (佐藤) 和那美, 28 上野秀人／3回) 陸上競技の教材研究や授業研究の視点、及び、保健体育的な見方・考え方の視点、さらには、球技の教材研究や授業研究の視点について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (22 杉本 (佐藤) 和那美, 52 戸塚学／2回) 水泳、スキーの教材研究や授業研究の視点、及び、保健体育的な見方・考え方の視点、さらには、球技の教材研究や授業研究の視点について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (22 杉本 (佐藤) 和那美, 53 清水紀人／4回) 体づくり・器械運動の教材研究や授業研究の視点、及び、保健体育的な見方・考え方の視点、さらには、球技の教材研究や授業研究の視点について、演習を実施したり院生への助言・考察を行う。	共同
授業に向けた教材研究 I (技術)	技術科の学習の内容における問題解決的な学習を遂行し得る題材事例を実体験し、その体験を基にそれら各題材における教材研究のあり方を技術科の見方・考え方を生かす視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (8 櫻田安志, 38 上之園哲也／7回) 電気情報分野における技術科の見方・考え方を生かしつつ問題解決的な学習を遂行し得る題材と教材研究の在り方、及び、その実践的視点について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 67 勝川健三／4回) 生物育成分野における技術教育の見方・考え方を生かしつつ問題解決的な学習を遂行し得る題材と教材研究の在り方、及び、その実践的視点について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 79 廣瀬孝／4回) 材料加工分野における技術教育の見方・考え方を生かしつつ問題解決的な学習を遂行し得る題材と教材研究の在り方、及び、その実践的視点について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究 I (家庭)	学習指導要領にある家庭科（衣食住の生活，消費生活・環境）の教材について，教材の背景にある理論的な考察を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ，それを基に家庭科の教材研究のあり方を再認識する。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 （共同／全15回） (23 小野恭子，41 加賀恵子，54 北原啓司／5回) 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた授業実践を目指し，家庭科教育の専門的な観点，及び，住居学の観点から教材研究のあり方について，演習を実施したり院生への助言を行う。 （23 小野恭子，41 加賀恵子，55 安川あけみ／5回） 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた授業実践を目指し，家庭科教育の専門的な観点，及び，被服学の観点から教材研究のあり方について，演習を実施したり院生への助言を行う。 （23 小野恭子，41 加賀恵子，68 李秀眞／5回） 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた授業実践を目指し，家庭科教育の専門的な観点，及び，家庭経営学の観点から教材研究のあり方について，演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究 I (英語)	学習指導要領に規定されている言語材料に基づき，英語科の教材研究について，第二言語習得・英米文学・言語学などの専門的な視点から考察することを通して，そのあり方を再検討する。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また，教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 （共同／全15回） (9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 56 野呂徳治／5回) 学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方，及び，第二言語習得の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 80 土屋陽子／5回） 学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方，及び，絵本や読み物教材の活用など英米文学的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 81 近藤亮一／5回） 学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方，及び，教科書などに見られる言語形式の提示・指導の在り方など言語学的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

国語科教育学特論Ⅱ	各院生の研究内容に関係する先行研究の考察を中心にしながら、国語教育の今日的な課題を明らかにし、実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から検討をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (20 鈴木(竜田)愛理, 45 山田史生／7回) 文学教育及び漢文の知見から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (40 田中拓郎, 46 吉田比呂子／7回) 説明的文章教育と古典分野を中心に演習を実施したり、院生への助言を行う。 (20 鈴木(竜田)愛理, 40 田中拓郎／1回) 今日的な国語教育の課題と実践の在り方について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
社会科教育学特論Ⅱ	各院生の校種の違いを踏まえ、先行実践や現在の実践動向を基礎として、社会科教育の今日的な課題に対応する実践のあり方について教材研究や授業研究の視点から、授業観察と分析などを通して考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人／3回) 社会科教育の今日的課題に対応する実践のあり方について、自然地理学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦, 48 高瀬雅弘／3回) 社会科教育の今日的課題に対応する実践のあり方について、社会学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦, 75 蒔田純／3回) 社会科教育の今日的課題に対応する実践のあり方について、政治学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦, 76 大谷伸治／3回) 社会科教育の今日的課題に対応する実践のあり方について、歴史学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人, 48 高瀬雅弘, 75 蒔田純, 76 大谷伸治／1回) 社会科教育の今日的課題に対応する実践のあり方、及び、学校教育の実情を踏まえた実践のあり方について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑠史朗, 37 篠塚明彦／2回) 社会科教育の今日的課題に対応した実践のあり方について理論的視点と学校の実情から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

数学科教育学特論Ⅱ	算数・数学教育について各院生の研究内容についての先行研究を基に、算数・数学教育の今日的な課題である「数学的な見方・考え方」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、ティーム・ティーチングにより行う。また、15回中8回は教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (13 田中義久, 77 上山健太／3回) 代数学の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (27 中野博之, 60 山本稔／3回) 幾何学の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (13 田中義久, 82 吉川和宏／1回) 確率統計の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (27 中野博之, 82 吉川和宏／1回) 確率統計の視点から数学的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (13 田中義久, 27 中野博之／7回) 数学的な見方・考え方についての理論、及び、教材研究や授業研究という実践面について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
理科教育学特論Ⅱ	理科教育に関係して環境教育や防災教育などをテーマとし、理科を基盤とした教科融合型の授業づくりを行い、模擬授業などをおとした実践から理科の授業研究について考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (10 山本逸郎, 14 佐藤崇之／5回) 理科を基盤とした教科融合型の授業づくりとその授業研究についての視点、及び、理科に関係する学問領域（物理学）の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (14 佐藤崇之, 62 岩井草介／5回) 理科を基盤とした教科融合型の授業づくりとその授業研究についての視点、及び、理科に関係する学問領域（生物学）の視点から演習を実施したり、院生への助言を行ったりする (14 佐藤崇之, 63 島田透／5回) 理科を基盤とした教科融合型の授業づくりとその授業研究についての視点、及び、理科に関係する学問領域（物理学）の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

音楽科教育学特論Ⅱ	各院生が研究する主題について、歴史的な背景と理論、近年の先行研究と関連させながら、実際の授業を想定した演習と議論を行う。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (6 杉原かおり, 42 清水稔／4回) 教科教育における実技の技法及び理論的な視点から、現在の音楽教育が抱える諸問題の解決のための演習を主導するとともに、指導のために必要な技能習得のための演習を実施したり、院生への助言を行う。 (42 清水稔, 50 今田匡彦／4回) 音楽科教育学の視点から、哲学的な考察によって教科教育における理論的な助言を行うとともに、サウンドスケープや創作等の実践的な手法を通して指導のための技能向上を図ったり、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (42 清水稔, 78 朝山奈津子／4回) 音楽史及び楽曲の分析等の視点から、現在の音楽教育が抱える諸問題の解決に必要な視点について指導、助言をする。 (42 清水稔, 86 和田 美亀雄／3回) 器楽指導の視点から助言を行うとともに、指導のために必要な技能習得のための演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
美術科教育学特論Ⅱ	図画工作・美術教育について各院生の研究内容に焦点を当て、図画工作・美術教育の「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方について、教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同) (7 塚本悦雄) 立体造形表現における実践のあり方の視点から、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (51 蝦名敦子) 「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (65 富田晃) 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

保健体育科教育学特論Ⅱ	保健体育教育について各院生の研究内容についての先行研究を基に、保健体育教育の今日的な課題と実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチング、または、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (15 高橋俊哉, 21 益川満治／5回) 保健科教育・学校保健の視点、及び、メンタルヘルスの視点から保健体育的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (15 高橋俊哉, 22 杉本(佐藤)和那美／2回) 保健科教育・学校保健の視点、及び、保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方・考え方について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (15 高橋俊哉, 28 上野秀人／3回) 保健科教育・学校保健の視点、及び、保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方・考え方について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (15 高橋俊哉, 52 戸塚学／5回) 保健科教育・学校保健の視点、及び、生理学・衛生学の視点から保健体育的な見方考え方の考察について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
技術科教育学特論Ⅱ	各院生の研究内容について先行研究を基に、技術科教育の今日的な課題である「技術による持続可能な社会を構築するための資質・能力」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の視点から考察をする。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (8 櫻田安志, 38 上之園哲也／7回) 電気情報分野における「技術による持続可能な社会を構築するための資質・能力」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の在り方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 67 勝川健三／4回) 生物育成分野における「技術による持続可能な社会を構築するための資質・能力」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の在り方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 79 廣瀬孝／4回) 材料加工分野における「技術による持続可能な社会を構築するための資質・能力」を育てる実践のあり方を教材研究や授業研究の在り方について、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

家庭科教育学特論Ⅱ	家庭科教育について、各院生の研究内容に関連する先行研究を基に、家庭科教育の今日的な課題である「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる実践のあり方を、教材研究や授業研究の視点から考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、実務家教員と研究者教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 54 北原啓司／3回) 各院生の研究内容に基づき、家庭科に関する学問領域（住居学）の観点から、住生活に関わる授業研究について、及び、家庭科教育の理論や教材研究について、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 55 安川あけみ／3回) 各院生の研究内容に基づき、家庭科に関する学問領域（被服学）の観点から衣生活に関わる内容について、及び、家庭科教育の理論や教材研究について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 68 李秀眞／3回) 各院生の研究内容に基づき、家庭科に関する学問領域（家庭経営学）の観点から、家族や家庭生活に関わる内容について、及び、家庭科教育の理論や教材研究について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子／6回) 各院生の研究内容に基づき、家庭科教育の理論や教材研究について、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
英語科教育学特論Ⅱ	各院生の研究テーマに基づき、英語科授業における指導法、教授学習活動及び評価の問題点について授業分析をとおして明らかにし、その改善の方策を検討する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同) (9 Rausch Anthony Scott) コミュニケーション研究の視点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (24 佐藤剛) 学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。 (56 野呂徳治) 言語習得の過程の観点から、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(国語)	各院生の研究内容に関係する教材を取り上げ、その教材における学問的背景を考察することを通して、教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同) (20 鈴木（竜田）愛理, 45 山田史生／7回) 文学教育及び漢文の知見から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (40 田中拓郎, 46 吉田比呂子／7回) 説明的文章教育と古典分野を中心に演習を実施したり、院生への助言を行う。 (20 鈴木（竜田）愛理, 40 田中拓郎／1回) 国語の教材研究について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究Ⅱ(社会)	各院生の校種の違いを踏まえて社会科の教材について、その教材の基盤にある人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めるとともに、発達段階に沿った研究成果の応用を意識した社会科教材研究のあり方を再認識し、教材開発を行う。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人／3回) 人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めつつ教材開発を行うことについて、自然地理学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦, 48 高瀬雅弘／3回) 人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めつつ教材開発を行うことについて、社会学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦, 75 蒔田純／3回) 人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めつつ教材開発を行うことについて、政治学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦, 76 大谷伸治／3回) 人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めつつ教材開発を行うことについて、歴史学の研究動向を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦, 47 小岩直人, 48 高瀬雅弘, 75 蒔田純, 76 大谷伸治／1回) 人文科学・社会科学の研究成果についての理解を深めつつ教材開発を行うことについて、学校教育の実情を踏まえて演習を実施したり、院生への助言を行う。 (12 小瑤史朗, 37 篠塚明彦／2回) 社会科教育において教材開発を行うことについて理論的視点と学校の実情から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(数学)	各院生の研究テーマに基づいた算数数学の教材について、その教材の背景にある数理の考察を通して数学的な見方・考え方を経験し、その経験を基に算数数学の教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、15回中7回は教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (13 田中義久, 60 山本稔, /4回) 幾何学の視点、及び、中学校・高校の数学の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (60 山本稔, 77 上山健太／3回) 幾何学の視点、及び、代数学の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (60 山本稔, 77 上山健太, 82 吉川和宏／1回) 幾何学の視点、及び、代数学の視点、さらには確率統計の視点から教材研究のあり方、演習を実施したり院生への助言を行う。 (77 上山健太, 82 吉川和宏／4回) 代数学の視点、さらには確率統計の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。 (27 中野博之, 82 吉川和宏／3回) 小学校の算数科の視点及び確率統計の視点から教材研究のあり方について、演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究Ⅱ(理科)	学習指導要領の理科（小学校B区分，中学校第2分野）の教材について，科学的な見方・考え方を実感できる理学的内容を経験し，その経験から理科の教材研究のあり方を再認識する。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また，教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 （共同） （14 佐藤崇之） 学習指導要領の理科（小学校B区分，中学校第2分野）の教材について，教育現場の実状や実践のあり方の視点から，演習を実施したり院生への助言を行う。 （62 岩井草介） 学習指導要領の理科（小学校B区分，中学校第2分野）の教材について，教科専門の研究者の視点から，演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(音楽)	各院生が研究する主題に関連する理論や教材等について，その背景から考察し，これからの学校教育における諸問題を解決するために必要な，音楽科教員としての技能の向上と理念の育成を図る。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また，教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 （共同／全15回） （6 杉原かおり，42 清水稔，50 今田匡彦／4回） 教科教育における実技の技法及び理論的な視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり，院生への助言を行う。 （6 杉原かおり，42 清水稔，78 朝山奈津子／4回） 教科教育の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と，音楽史及び楽曲の分析等の視点から，現在の音楽教育が抱える諸問題の解決に必要な視点について各院生の研究主題を基に演習を実施したり，院生への助言を行ったりする （6 杉原かおり，42 清水稔，86 和田 美亀雄／3回） 教科教育の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と，器楽指導の視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり，院生への助言を行う。 （6 杉原かおり，42 清水稔／4回） 教科教育学の視点から現在の音楽教育が抱える諸問題についての議論と技術の習得について学校現場の実情や実践的な視点から各院生の研究主題を基に演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(美術)	各院生の研究テーマに基づいた図画工作・美術の教材について，表現と鑑賞の実践を通して「造形的な見方・考え方」を深め，図画工作・美術の教材開発と実践を行う。 なお，全回とも演習を基本とし，研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また，教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 （共同） （7 塚本悦雄） 各院生の研究テーマに基づき，立体造形表現における実践のあり方の視点から，演習を実施したり，院生への助言を行う。 （51 蝦名敦子） 各院生の研究テーマに基づき，「造形的な見方・考え方」を育てる実践のあり方の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。 （65 富田晃） 各院生の研究テーマに基づき，「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点から演習を実施したり，院生への助言を行う。	共同

授業に向けた教材研究Ⅱ(保健体育)	各院生の研究テーマに基づいた保健体育の教材について、先行研究や様々な実践例を学び、その経験を基に保健体育の教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチング、または、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (15 高橋俊哉, 22 杉本(佐藤)和那美／5回) 保健体育科教育学の視点、及び、学校保健の視点から保健体育的な見方考え方の考察に基づいた教材研究について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (22 杉本(佐藤)和那美, 21 益川満治／5回) 体育学の視点、及び、保健体育科教育学の視点から保健体育的な見方考え方の考察に基づいた教材研究について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (30 上野秀人, 52 戸塚学／5回) 保健体育科教育学の視点、及び、運動生理学の視点から保健体育的な見方考え方の考察に基づいた教材研究について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(技術)	各院生の研究テーマに基づいた技術科の題材及びカリキュラムについて、技術科で育成すべき資質・能力の視点から教材研究のあり方を考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (8 櫻田安志, 38 上之園哲也／7回) 電気情報分野における技術科で育成すべき資質・能力の視点に立った題材及びカリキュラムと教材研究のあり方について演習を実施したり院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 67 勝川健三／4回) 生物育成分野における技術科で育成すべき資質・能力の視点に立った題材及びカリキュラムと教材研究のあり方について演習を実施したり院生への助言を行う。 (38 上之園哲也, 79 廣瀬孝／4回) 材料加工分野における技術科で育成すべき資質・能力の視点に立った題材及びカリキュラムと教材研究のあり方について演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
授業に向けた教材研究Ⅱ(家庭)	各院生の研究テーマに基づいた家庭科(家族・家庭生活、消費生活・環境)の教材について、教材の背景にある理論的な考察を通して「生活の営みに係る見方・考え」を働かせ、それを基に家庭科の教材研究のあり方を再認識する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。 (共同／全15回) (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 54 北原啓司／5回) 各院生の研究テーマに基づき、「生活の営みに係る見方・考え」を働かせた住居学の視点から教材研究のあり方について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 55 安川あけみ／5回) 各院生の研究テーマに基づき、「生活の営みに係る見方・考え」を働かせた被服学の視点から教材研究のあり方について演習を実施したり、院生への助言を行う。 (23 小野恭子, 41 加賀恵子, 68 李秀眞／5回) 各院生の研究テーマに基づき、「生活の営みに係る見方・考え」を働かせた家庭経営学の視点から教材研究のあり方について演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

			各院生の研究テーマに基づき、英語科の教材研究について、第二言語習得・英米文学・言語学などの専門的な視点から考察することを通して、そのあり方を再検討する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより行う。また、教科教育担当教員と教科専門教員が協同して授業を行う。 (共同／全15回) (9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 56 野呂徳治／5回) 各院生のテーマに応じて作成・採択された教材について、学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方、及び、第二言語習得の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 (9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 80 土屋陽子／5回) 各院生のテーマに応じて作成・採択された教材について、学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方、及び、絵本や読み物教材の活用など英米文学的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 (9 Rausch Anthony Scott, 24 佐藤剛, 81 近藤亮一／5回) 各院生のテーマに応じて作成・採択された教材について、学習指導要領に規定されている言語材料に基づく教材研究の在り方、及び、教科書などに見られる言語形式の提示・指導の在り方など言語学的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
発展科目	特別支援教育実践コース科目	⑥ 全領域の発展に関する領域	特別支援教育の授業デザイン 障害のある児童生徒の自立と社会参加の実現を目指した授業をデザインするため、知的障害のある児童生徒を対象に、実態把握等を中心としたアセスメント情報の収集と分析の手立てを考察する。さらに、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を最大限に発揮するために、学習指導案の作成、授業の実際、授業の省察により、授業づくりの観点を考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより授業を行う。また、知的特別支援学校よりゲストスピーカーを招聘し、ICTの具体的活用方法について演習を行う。 (共同) (29 菊地一文) 障害のある児童生徒の自立と社会参加の実現を目指した授業をデザインについて研究者教員の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (35 土岐賢悟) 障害のある児童生徒の自立と社会参加の実現を目指した授業をデザインについて学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同

特別支援教育の制度と経営課題	子どもたちが就学期を迎える段階から、就学後の各ステージにおける制度・仕組みを理解するとともに、現状と課題を考察し、解決のための実践的な理解を図る。また、子どもたちがより良い教育を享受するために、日頃の教育活動を検証し、子どもたちのニーズに応える学びの場や取組について、特別支援教育の制度と現状分析を通して議論を深め、課題解決のための具体的な方策を考える。そして学校運営の評価と改善を目指す学校評価の取り組みと活用について考察する。 なお、全回とも学校現場における実際場面を想定して、ティーム・ティーチングにより授業を行う。 (共同) (31 敦川真樹) 特別支援教育の制度と現状分析について、学校現場の実情や実践的視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。 (87 川村泰弘) 特別支援教育の制度と現状分析について、特別支援学校の管理職の視点から演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
特別支援教育コーディネーターの役割と課題	特別支援教育推進のキーパーソンとなる特別支援教育コーディネーターに期待される役割、基本的業務を理解する。さらに、複数のケース検討を実施し、それぞれの業務の中で起こりうる問題や課題を整理し、具体的な解決策を考案できる能力を身に付ける。その他、保護者と関係機関等との連携のあり方及び取り組みの実際を考察する。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより授業を行う。また、小中高等学校よりゲストスピーカーを招聘し、教育実践に基づく演習を行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育コーディネーターに期待される役割、基本的業務について研究者教員の視点から、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育コーディネーターに期待される役割、基本的業務について学校現場の実情や実践的視点から、演習を実施したり、院生への助言を行う。 (35 土岐賢悟) 特別支援教育コーディネーターに期待される役割、基本的業務について通常学級の実情や実践的視点から、演習を実施したり、院生への助言を行う。	共同
特別支援教育の教育課程の実施と評価	特別支援教育の教育課程について、我が国の特別支援教育の歴史的な変遷を踏まえながら、特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成について理解するとともに、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性重視の視点を持つことができる。さらに、肢体不自由教育を中心に障害種別毎に、望ましい教育課程編成のための知識と技量を身に付ける。特に、自立活動の個別の指導計画の作成及び指導、評価、改善について、授業を通してPDCAサイクルの実際を学ぶ。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより授業を行う。また、特別支援学校よりゲストスピーカーを招聘し、教育課程に係る演習を行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育についての教育課程の編成、実施、評価について研究者教員の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育についての教育課程の編成、実施、評価について学校の実情や実践的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同

			障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、就学前から学校卒業後までを通じて一貫して適切な教育的支援を行うことを目的として作成する「個別的教育支援計画」と、教育課程を具体化し個々の子どもの教育的ニーズに対応したきめ細やかな指導を行うための計画である「個別の指導計画」、そして学校から社会へ、子どもから大人へと移行を迎える高等部生徒の将来を支える「個別の移行支援計画」（「個別的教育支援計画」の1つの形態として）の理念を正しく理解した上で、これらの計画の作成手順を学び、適切な各計画の作成方法を習得する。さらに、作成後の管理や具体的な活用方法等についても併せて学ぶ。 なお、全回とも演習を基本とし、研究者教員と実務家教員のティーム・ティーチングにより授業を行う。また、特別支援学校よりゲストスピーカーを招聘し、教育実践に基づく演習を行う。 （共同） （29 菊地一文） 特別に支援を要する子どもへの個別的教育支援計画と個別の指導計画について研究者教員の視点から演習を実施したり院生への助言を行う。 （35 土岐賢悟） 特別に支援を要する子どもへの個別的教育支援計画と個別の指導計画について学校の実情と実践的な視点から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
		病弱児の心理・生理・病理	病弱の子どもたちの心理特性、人体の生理・病理の基本的事項及び各種病気の病理、保健等の概要を理解し、病弱の子どもたちの心理的ケアや保健面での適切な配慮について考察する。また、病弱教育の対象となる子どもの主な病気や障害について、病態生理や保健の視点から理解を深め、学校教育で配慮すべき事柄についての知識を身に付ける。 なお、各回の授業では医学的視点を中心に理論及び実践的対応について考察する。 （共同／全15回） （31 敦川真樹, 59 若林孝一／8回） 医学的専門分野の教員による指導を、実務家教員の立場からコーディネートすること、及び、病弱児の生理・病理の理解及び心理的特性と配慮について、最新の医学的見地から演習を実施したり院生への助言を行う。 （31 敦川真樹, 74 栗林理人／7回） 医学的専門分野の教員による指導を、実務家教員の立場からコーディネートとすること、及び、神経系疾患及び思春期周辺の精神疾患を中心に病状と配慮事項及び子どもへの支援と配慮について、具体的事例を上げながら講義・演習を行う。	共同

			学習障害（LD），自閉症スペクトラム（ASD），注意欠陥多動性障害（ADHD）に焦点をあて、障害の概念と定義（診断基準），行動特性，教育上の基本的な配慮事項と指導法について理解を深める。また，各障害に係る事例について，グループディスカッションを通して課題を明らかにし，学習上又は生活上の困難の改善を図るための具体的な手立てを考察する。 なお，発達障害の児童生徒の教育実践課題を中心に，研究者教員と実務家教員によるティーム・ティーチングで，演習に重きを置いた授業を行う。 （共同／全15回） （31 敦川真樹，33 吉原 寛／12回） 教育現場における発達障害児の教育課題と対応に係る講義・演習を行う。 （31 敦川真樹，33 吉原 寛，74 栗林理人／3回） 教育現場における発達障害児の教育課題と対応，及び，学習障害（LD），自閉症スペクトラム（ASD），注意欠陥多動性障害（ADHD）の各障害特性と基本的な配慮について，最新の医学的知見から演習を実施したり院生への助言を行う。	共同
教育実践研究科目		教育実践研究法A(教育実践研究A I)	教育研究の方法，特に課題発見，仮説形成，仮説検証，改善へと向かう一連のプロセスを理解する。特に，自らの教育実践の省察に基づく課題発見から仮説形成への道筋をつけていく。また，様々な教育研究・調査法について，そのデザイン・データ収集・分析などの基礎的知識・技能について，実習等で収集した具体例などを交えながら学ぶ。これらを通じて，最終的には各自の研究課題を自ら設定できる力を培うとともに，それに即した教育研究方法を選び取ることのできる力を培う。 なお，研究者教員が主として行うこととするし，全ての授業を複数の教員がティーム・ティーチングを行う。 （共同／全15回） （29 菊地一文，33 吉原寛／3回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法について，研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （29 菊地一文，32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／3回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法，そして，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／2回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （27 中野博之，32 吉田（宮平）美穂／2回） 教育研究の方法，特に授業研究の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，26 小林央美／3回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究について，研究的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，26 小林央美，27 中野博之／1回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究，そして，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，27 中野博之／1回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。	共同

教育実践研究AⅡ	本授業はゼミ形式で行い、各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して、各院生の課題解決に向けた研究仮説を洗練する。レポートの内容は以下のとおりである。 ・「実習ⅡA（仮説形成）」、「実習ⅡB（仮説形成）」での事実やその分析の記録や実践記録とその考察 ・自らの研究課題に関連した先行研究とその研究成果についての考察 なお、授業は指導教員ごとに各グループで行うが、原則、2つ程度のグループが合同で行うようにし、学部新卒学生では仮説を基にした実践の在り方を理解できるように、ミドルリーダー養成コースでは研究課題解決のための仮説とその検証の視点を形成できるようにする。 (共同) (11 武内裕明) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (18 野寄茉莉) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から研究指導を行う。 (27 中野博之) 授業研究及び教材研究の視点から研究指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から研究指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から研究指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から研究指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から研究指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から研究指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から研究指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から研究指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から研究指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育。道徳教育、学校経営の視点から研究指導を行う。	共同
----------	--	----

教育実践研究AⅢ	本授業はゼミ形式で行い、各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して、各院生の課題解決に向けた研究仮説を洗練させていく。レポートの内容は以下のとおりである。 ・「実習ⅢA（課題検証）」、「実習ⅢB（課題検証）」での事実やその分析の記録や実践記録とその考察 ・実践に基づいた事実から明確になった課題の解決のため、または、研究仮説を修正するために必要な先行研究の成果と課題の考察 なお、授業は指導教員ごとに各グループで行うが、原則、2つ程度のグループが合同で行うようにし、学部新卒学生では仮説に基づいた実践を事実を基に省察し改善策を考えると、という研究的なサイクルを実践することができるように、ミドルリーダー養成コースでは「仮説形成→実践→省察→仮説の修正と改善案の作成」といった探究的な研究活動が続けることができるようにする。 (共同) (11 武内裕明) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (18 野寄茉莉) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から研究指導を行う。 (27 中野博之) 授業研究及び教材研究の視点から研究指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から研究指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から研究指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から研究指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から研究指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から研究指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から研究指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から研究指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から研究指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育。道徳教育、学校経営の視点から研究指導を行う。	共同
----------	---	----

教育実践研究AIV	本授業はゼミ形式で行い、各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して、授業の最後に行う「教育実践研究発表会」での発表内容と報告書の記述内容を洗練させていく。 ・「実習ⅢA（課題検証）」、「実習ⅣB（課題解決検証）」での事実と考察・2年間の学びの成果と今後の課題 なお、授業は指導教員ごとに各グループで行うが、原則、2つ程度のグループが合同で行うようにする。学部新卒学生では、2年間でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で「学習成果報告書」を作成し発表できるように、ミドルリーダー養成コースでは、現任校や勤務地域での研修会でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で「学習成果報告書」を作成し発表をすることができるようにする。 また、「学習成果報告書」を基にした「教育実践研究発表会」では、各自の研究の成果と今後の課題を青森県内だけでなく、広く全国の教職大学院関係者に報告書とともに発表をする。 (共同) (11 武内裕明) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (18 野寄茉莉) 幼児教育の視点から研究指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から研究指導を行う。 (27 中野博之) 授業研究及び教材研究の視点から研究指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から研究指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から研究指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から研究指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から研究指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から研究指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から研究指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から研究指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から研究指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から研究指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育。道徳教育、学校経営の視点から研究指導を行う。	共同
-----------	---	----

教育実践研究法B(教育実践研究B I)	養護教諭についての教育研究の方法，特に課題発見，仮説形成，仮説検証，改善へと向かう一連のプロセスを理解する。特に，養護教諭として自らの教育実践の省察に基づく課題発見から仮説形成への道筋をつけていく。また，様々な教育研究・調査法について，そのデザイン・データ収集・分析などの基礎的知識・技能について，実習等で収集した具体例などを交えながら学ぶ。これらを通じて，最終的には養護教諭として各自の研究課題を自ら設定できる力を培うとともに，それに即した教育研究方法を選び取ることのできる力を培う。 なお，研究者教員が主として行うことし，全ての授業を複数の教員がティーム・ティーチング行う。 (共同／全15回) (29 菊地一文，33 吉原寛，／3回) 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法について，研究的かつ実践的視点から演習を行う。 (29 菊地一文，32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／3回) 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法，そして，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 (32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／2回) 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 (27 中野博之，32 吉田（宮平）美穂／2回) 教育研究の方法，特に授業研究の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 (1 福島裕敏，26 小林央美／3回) 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究について，研究的視点から演習を行う。 (1 福島裕敏，26 小林央美，27 中野博之／1回) 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究，そして，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。 (1 福島裕敏，27 中野博之／1回) 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。	共同
教育実践研究B II	本授業はゼミ形式で行い，各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して，各院生の養護教諭としての課題解決に向けた研究仮説を洗練する。レポートの内容は以下のとおりである。 ・「実習ⅡA（仮説形成）」，「実習ⅡB（仮説形成）」での事実やその分析の記録や実践記録とその考察 ・養護教諭として自らの研究課題に関連した先行研究とその研究成果についての考察 なお，学部新卒学生では養護教諭として仮説を基にした実践の在り方を理解できるように，ミドルリーダー養成コースでは養護教諭として研究課題解決のための仮説とその検証の視点を形成できるようにする。 (共同) (26 小林央美) 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から研究指導を行う。 (39 新谷ますみ) 養護教育学，学校保健の視点から研究指導を行う。	共同

教育実践研究BⅢ	本授業はゼミ形式で行い、各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して、各院生の養護教諭としての課題解決に向けた研究仮説を洗練させていく。レポートの内容は以下のとおりである。 ・「実習ⅢA（課題検証）」、「実習ⅢB（課題検証）」での事実やその分析の記録や実践記録とその考察 ・実践に基づいた事実から明確になった課題の解決のため、または、研究仮説を修正するために必要な先行研究の成果と課題の考察 なお、学部新卒学生では仮説に基づいた実践を事実を基に省察し改善策を考えるという養護教諭としての研究的なサイクルを実践することができるように、ミドルリーダー養成コースでは養護教諭として「仮説形成→実践→省察→仮説の修正と改善案の作成」といった探究的な研究活動が続けることができるようにする。 (共同) (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から研究指導を行う。 (39 新谷ますみ) 養護教育学、学校保健の視点から研究指導を行う。	共同
教育実践研究BⅣ	本授業はゼミ形式で行い、各院生のレポート発表とそれに基づいた議論を通して、授業の最後に行う「教育実践研究発表会」での養護教諭としての発表内容と報告書の記述内容を洗練させていく。 ・「実習ⅢA（課題検証）」、「実習ⅣB（課題解決検証）」での事実と考察 ・養護教諭としての2年間の学びの成果と今後の課題 なお、学部新卒学生では、養護教諭として2年間でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で「学習成果報告書」を作成し発表できるように、ミドルリーダー養成コースでは、養護教諭として現任校や勤務地域での研修会でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で「学習成果報告書」を作成し発表をすることができるようにする。 また、「学習成果報告書」を基にした「教育実践研究発表会」では、養護教諭としての各自の研究の成果と今後の課題を青森県内だけではなく、広く全国の教職大学院関係者に報告書とともに発表をする。 (共同) (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から研究指導を行う。 (39 新谷ますみ) 養護教育学、学校保健の視点から研究指導を行う。	共同

特別支援教育実践研究法（特別支援教育実践研究Ⅰ）	特別支援教育研究の方法，特に課題発見，仮説形成，仮説検証，改善へと向かう一連のプロセスを理解する。特に，自らの教育実践の省察に基づく課題発見から仮説形成への道筋をつけていく。また，様々な教育研究・調査法について，そのデザイン・データ収集・分析などの基礎的知識・技能について，観察実習等で収集した具体例などを交えながら学ぶ。これらを通じて，最終的には各自の研究課題を自ら設定できる力を培うとともに，それに即した教育研究方法を選び取ることができる力を培う。 （共同／全15回） （29 菊地一文，33 吉原寛／3回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法について，研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （29 菊地一文，32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／3回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，事例研究・省察の方法，そして，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （32 吉田（宮平）美穂，33 吉原寛／2回） 教育研究の方法，特にアンケート調査の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （31 敦川真樹，32 吉田（宮平）美穂／2回） 教育研究の方法，特に授業研究の方法，及び，エスノグラフィー・省察の方法について研究的かつ実践的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，26 小林央美／3回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究について，研究的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，26 小林央美，31 敦川真樹／1回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，事例研究，そして，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。 （1 福島裕敏，31 敦川真樹／1回） 教育研究の方法，特に省察や方法論的前提，及び，授業研究の方法について，研究的視点から演習を行う。	共同
特別支援教育実践研究Ⅱ	本授業は，ゼミ形式で行う。授業では，各院生のレポート発表とそれに基づいた院生同士及び教員との議論を通して，各院生の課題解決に向けた研究仮説を洗練させていく。なお，レポートの内容は以下のようなものとする。 ・「特別支援教育実習ⅡA（仮説形成）」，「特別支援教育実習ⅡB（仮説形成）」での観察記録や実践記録とその考察 ・自らの研究課題に関連した先行研究とその研究成果についての考察 なお，特別支援教育実践コースでは仮説を基にした実践の在り方の理解できるように，ミドルリーダー養成コースでは研究課題解決のための仮説とその検証の視点を形成できるようにする。 （共同／全8回） （29 菊地一文） 特別支援教育について，キャリア教育，及び，特別支援教育の制度設計の視点から研究指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育について，教育相談，及び，学校現場の実状と実践の視点から研究指導を行う。	共同

特別支援教育実践研究Ⅲ	本授業は、ゼミ形式で行う。授業では、各院生のレポート発表とそれに基づいた院生同士及び教員との議論を通して、各院生の課題解決に向けた研究仮説を洗練させていく。なお、レポートの内容は以下のようなものとする。 ・「特別支援教育実習ⅢA（仮説検証）」、「特別支援教育実習ⅢB（仮説検証）」での観察記録や実践記録とその考察 ・自らの研究課題に関連した先行研究とその研究成果についての考察 なお、特別支援教育実践コースでは仮説に基づいた実践を事実を基に省察し改善策を考えるという研究的なサイクルを実践することができるように、ミドルリーダー養成コースでは「仮説形成→実践→省察→仮説の修正と改善案の作成」といった探究的な研究活動が続けることができるようにする。 （共同） （29 菊地一文） 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から研究指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から研究指導を行う。	共同
特別支援教育実践研究Ⅳ	本授業は、ゼミ形式で行う。授業では各院生のレポート発表とそれに基づいた院生同士及び教員との議論を通して、教育実践研究発表会での発表内容と報告書の記述内容を洗練させていく。なお、レポートの内容は以下のようなものとする。 ・「特別支援教育実習ⅢA（課題検証）」及び「特別支援教育実習ⅣB（課題解決検証）」での事実とその考察 ・2年間の学びの成果と今後の課題 なお、特別支援教育実践コースでは、2年間でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で発表できるように、ミドルリーダー養成コースでは、現任校や勤務地域での研修会でどのような成果があったのか理論と融合させてまとめ、さらに今後の課題を明らかにした上で発表をすることができるようにする。また、本授業の最後に、「教育実践研究発表会」を行い、研究報告書とともに各自の研究の成果と今後の課題を青森県内だけではなく、広く全国の教職大学院関係者に発表をする。 （共同） （29 菊地一文） 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から研究指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から研究指導を行う。	共同

実習科目	ミドルリーダー養成コース	連携協力校での事実の収集の仕方を学ぶ実習、附属学校の公開実習会への参加を通して、「教育実践実習法（教育実践実習Ⅰ）」と連動して自らの課題の把握の仕方を知る。また、教育関連施設での実習を通して、業務や研修会がどのような意図を持って企画・実施され、その成果がどのように省察されているのか、また、自らの課題解決に活用できる人材や地域人材がどのような所に所属しているのかについて把握していくとともに、地域や学校についての真の課題を捉える方法を知る。なお、引率教員は全教員が輪番で分担をする。 （共同） （1 福島裕敏） 教育社会学の視点から実習指導を行う。 （26 小林央美） 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から実習指導を行う。 （27 中野博之） 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 （28 上野秀人） 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 （29 菊地一文） 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 （30 中谷保美） 学校経営・危機管理，及び，社会科教育の視点から実習指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育，教育相談の視点から実習指導を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育社会学(教員文化，キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 （33 吉原寛） 教育相談，生徒指導の視点から実習指導を行う。 （34 大瀬幸治） 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （35 土岐賢悟） インクルーシブ教育システム構築について，及び，小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （43 瀧本壽史） 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 （44 古川郁生） 特別活動，学校経営，数学教育の視点から実習指導を行う。 （85 三上雅生） 英語教育，道徳教育，学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
------	--------------	--	----

	学部新卒学生の院生が連携協力校で行っている実習に付き添いメンター実習を行う。また、現職院生同士による授業研究実習を行い、「教育実践研究法（教育実践研究Ⅰ）」と連動して、自己の教育実践についての課題を把握する。授業実践では学習指導案で仮説と検証の視点を明確にし検証の視点に沿って、子どもの事実を基に仮説が検証されたのかどうかについて議論をする。 なお、メンター実習の引率教員は担当教員が輪番で分担し、授業実践省察実習については、基礎科目の「教科等の実践的な指導方法に関する領域」の主担当教員が実習を担当する。 (共同) (1 福島裕敏) 教育社会学の視点から実習指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から実習指導を行う。 (27 中野博之) 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から実習指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から実習指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から実習指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育、道德教育、学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
--	---	-----------

	自らの課題に沿って選択した研修会に参加する。連携協力校の校内研修会参加の場合は、研修会の企画会議や学習指導案検討会に資料等を持って参加し研修会開催校の教員と意見交換を行う。 また、研修会には本専攻の教員と参加し、研修会の課題と成果をまとめる。青森県総合学校教育センターの研修会に参加する場合は、本専攻の教員とともに研修会の企画から関わり、研修会当日は研修会の手伝いを行いながら研修会主催者の視点を持って研修会に参加する。教育相談等の研修会については、本専攻の教員の助言を得た上で、学校管理者、研修会参加教員、子ども、保護者の面談を見学する。 (共同) (1 福島裕敏) 教育社会学の視点から実習指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から実習指導を行う。 (27 中野博之) 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から実習指導を行う。 実習ⅡA（仮説形成） (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から実習指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から実習指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から実習指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育、道德教育、学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
--	--	----

実習ⅢA（課題検証）	1年次に形成した仮説を基に、勤務校での課題を協働で解決するための方策を実践する。実践にあたっては、指導教員が勤務校に出向き、実習の評価を行い、それを基に「教育実践研究Ⅲ」及び「教育実践研究Ⅳ」での省察活動を指導する。実践にあたっては、学校や地域の教育課題をどのようにして捉えたのか、その課題を解決するためにどのように仮説を設定したのかについて明確にするようにする。さらに、研修会等の参加者がどのようになれば研修会等の成果と捉えられるのかを明らかにした仮説検証の視点も明確にさせ、その検証の視点を基に省察を行う。 （共同） （1 福島裕敏） 教育社会学の視点から実習指導を行う。 （26 小林央美） 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から実習指導を行う。 （27 中野博之） 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 （28 上野秀人） 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 （29 菊地一文） 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 （30 中谷保美） 学校経営・危機管理，及び，社会科教育の視点から実習指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育，教育相談の視点から実習指導を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育社会学(教員文化，キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 （33 吉原寛） 教育相談，生徒指導の視点から実習指導を行う。 （34 大瀬幸治） 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （35 土岐賢悟） インクルーシブ教育システム構築について，及び，小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （43 瀧本壽史） 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 （44 古川郁生） 特別活動，学校経営，数学教育の視点から実習指導を行う。 （85 三上雅生） 英語教育，道德教育，学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
------------	--	----

特別支援教育実習ⅠA-1 (課題把握)	連携協力校の観察，附属学校の公開研究会等への参加による事実の収集を通して，「特別支援教育実践研究法（教育実践研究Ⅰ）」と連動して自らの課題の把握の仕方を知る。また，教育関連施設を観察し，業務や研修会がどのような意図を持って企画・実施され，その成果がどのように省察されているのか，また，自らの課題解決に活用できる人材や地域人材がどのような所に所属しているのかについて把握していくとともに，地域や学校についての真の課題を捉える方法を知る。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について，キャリア教育，及び，特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について，教育相談，及び，学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
特別支援教育実習ⅠA-2 (課題把握)	学部新卒学生の院生が連携協力校で行っている実習に付き添いメンター実習を行い，同僚に対して促進的に関わる方法について学ぶとともに若手教員が抱える課題を把握する。また，現職院生同士による授業研究実習を行い（主に附属学校），「特別支援教育実践研究法（教育実践研究Ⅰ）」と連動して，自己の教育実践についての課題を把握する。なお，授業実践に当たっては，学習指導案で仮説と検証の視点を明確に，その検証の視点にそって，授業での子どもの事実を基に仮説が検証されたのかどうかについて議論を行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について，キャリア教育，及び，特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について，教育相談，及び，学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
特別支援教育実習ⅡA (仮説形成)	自らの課題に沿って選択した研修会に参加する。連携協力校の校内研修会に参加する場合は，研修会の企画会議や学習指導案検討会に資料等を持って参加し研修会開催校の教員と意見交換を行う。また，研修会には本専攻の教員と参加し，研修会の課題と成果をまとめる。青森県総合学校教育センターの研修会に参加する場合は，本専攻の教員とともに研修会の企画から関わり，研修会当日は研修会の手伝いを行いながら研修会主催者の視点を持って研修会に参加する。また，教育相談等の研修会については，本専攻の教員の助言を得た上で，学校管理者，研修会参加教員，子ども，保護者の面談を見学する。なお，本実習も「特別支援教育実践研究Ⅱ」と連動させ，指導教員の指導のもと，課題の設定及び課題解決のための仮説の形成を行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について，キャリア教育，及び，特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について，教育相談，及び，学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同

	特別支援教育実習ⅢA (課題検証)	1年次に形成した仮説を基に、勤務校での課題を協働で解決するための方策(学校組織編成、研修会計画等)を実践する。実践にあたっては、学校や地域の教育課題をどのようにしてとらえたのか、その課題を解決するためにどのように仮説を設定したのかについて明確にする。また、指導教員が勤務地に出向き、実習の評価を行い、それを基に「特別支援教育教育実践研究Ⅲ」及び「特別支援教育実践研究Ⅳ」での省察活動を指導する。さらに、研修会等の参加者がどのようになれば研修会等の成果と捉えられるのかを明らかにした仮説検証の視点も明確にさせ、その検証の視点を基に省察を行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
--	------------------------------	--	-----------

教科領域実践コース	学校教育実践コース	連携協力校での事実の収集の仕方を学ぶ実習と「教育実践研究法（教育実践研究Ⅰ）」と連動させて省察し、子どもの事実の収集の仕方や授業の分析の仕方を身に付け、自らの課題の把握の方法を学ぶ。また、自らの課題設定の資料とする。実習にあたっては、事実と解釈を分けて記録すること、事実の収集に集中すること（解釈は収集後にできること）に心がけるようにする。さらに省察については、1つの事実から多様な解釈ができること、解釈の客観性を高めるためには、さらにより多くの事実の収集が必要であることを理解した上で進めていく。なお、引率教員は全教員が輪番で分担をする。 (共同) (1 福島裕敏) 教育社会学の視点から実習指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から実習指導を行う。 (27 中野博之) 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から実習指導を行う。 (32 吉田（宮平）美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から実習指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から実習指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育。道徳教育、学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
-----------	-----------	--	----

実習 I B-2（課題把握）	週 1 日、連携協力校において、教員と同じ様に教育活動に取り組む学校フィールド実習を行う。また、連携協力校において通常の授業期間外の 9 月に 5 日間連続（1 週間）で集中実習を行う。こうした教育全般に関わる学校フィールド実習及び集中実習を「教育実践研究法（教育実践研究 I）」と連動させ、各自の教育実践的な課題及び研究的な課題を実践での事実を基に把握できるようにする。なお、指導に当たっては、連携協力校の実習担当教員と大学の学校フィールド実習担当教員が連携を取って指導を行う。 （共同） （1 福島裕敏） 教育社会学の視点から実習指導を行う。 （26 小林央美） 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から実習指導を行う。 （27 中野博之） 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 （28 上野秀人） 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 （29 菊地一文） 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育社会学（教員文化，キャリア教育）の視点から実習指導を行う。 （33 吉原寛） 教育相談，生徒指導の視点から実習指導を行う。 （30 中谷保美） 学校経営・危機管理，及び，社会科教育の視点から実習指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育，教育相談の視点から実習指導を行う。 （34 大瀬幸治） 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （35 土岐賢悟） インクルーシブ教育システム構築について，及び，小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （43 瀧本壽史） 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 （44 古川郁生） 特別活動，学校経営，数学教育の視点から実習指導を行う。 （85 三上雅生） 英語教育，道德教育，学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
----------------	---	----

	実習ⅠBの成果と課題をもとに、連携協力校において、週1日教員と同じ様に教育活動に取り組む学校フィールド実習を行う。こうした教育全般に関わる学校フィールド実習を「教育実践研究Ⅱ」と連動させ、各自の教育実践的な課題及び研究的な課題それぞれについてその解決のための仮説を設定し、仮説に基づき、「実践→省察」を行い、仮説の洗練を行っていく。 なお、指導に当たっては、連携協力校の実習担当教員と大学の学校フィールド実習担当教員及び指導教員が連携を取って指導を行う。 (共同) (1 福島裕敏) 教育社会学の視点から実習指導を行う。 (26 小林央美) 養護教育学、健康教育、学校安全の視点から実習指導を行う。 (27 中野博之) 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 (28 上野秀人) 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 (29 菊地一文) 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 (30 中谷保美) 学校経営・危機管理、及び、社会科教育の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育、教育相談の視点から実習指導を行う。 (32 吉田(宮平)美穂) 教育社会学(教員文化、キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 (33 吉原寛) 教育相談、生徒指導の視点から実習指導を行う。 (34 大瀬幸治) 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (35 土岐賢悟) インクルーシブ教育システム構築について、及び、小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 (43 瀧本壽史) 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 (44 古川郁生) 特別活動、学校経営、数学教育の視点から実習指導を行う。 (85 三上雅生) 英語教育、道德教育、学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
実習ⅡB(仮説形成)		

実習ⅢB（課題解決研究）	1年次での実習を基盤にして、連携協力校における週1日教員と同じ様に教育活動に取り組む学校フィールド実習や10日間連続で行う集中実習（8月～9月の期間）での教育実践を通して、自ら発見した課題の解決のための仮説を設定し、実践・省察を行う。その上で、改善策を考えるとともに、新たな課題を見つけるという研究的な課題解決のサイクルを繰り返していく。また、実践の省察については、実習校の指導教員の助言を基にして、「教育実践研究Ⅲ」との連動でなされる。 なお、実習の指導に当たっては、実習校の指導教員と大学の実習担当教員及び指導教員が連携を取って指導を行う。 （共同） （1 福島裕敏） 教育社会学の視点から実習指導を行う。 （26 小林央美） 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から実習指導を行う。 （27 中野博之） 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 （28 上野秀人） 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 （29 菊地一文） 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 （30 中谷保美） 学校経営・危機管理，及び，社会科教育の視点から実習指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育，教育相談の視点から実習指導を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育社会学(教員文化，キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 （33 吉原寛） 教育相談，生徒指導の視点から実習指導を行う。 （34 大瀬幸治） 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （35 土岐賢悟） インクルーシブ教育システム構築について，及び，小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （43 瀧本壽史） 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 （44 古川郁生） 特別活動，学校経営，数学教育の視点から実習指導を行う。 （85 三上雅生） 英語教育，道德教育，学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
---------------------	--	-----------

実習IVB（課題解決検証）	連携協力校における、週1日教員と同じ様に教育活動を行う学校フィールド実習を通し、自ら設定した課題解決のための取り組みを省察し、検証しつつ改善を行い、最終的に成果をまとめる。また、実践の省察については、実習校の指導教員の助言を基にして、「教育実践研究IV」と連動させ、教育全般に関わる実践力習得のための理論と方法を理解する。 なお、実習の指導に当たっては、実習校の指導教員と大学の実習担当教員及び指導教員が連携を取って指導を行う。 （共同） （1 福島裕敏） 教育社会学の視点から実習指導を行う。 （26 小林央美） 養護教育学，健康教育，学校安全の視点から実習指導を行う。 （27 中野博之） 授業実習及び教材実習の視点から実習指導を行う。 （28 上野秀人） 教育課程編成及び健康教育の視点から実習指導を行う。 （29 菊地一文） 特別支援教育についてのキャリア教育及び特別支援教の制度のあり方の視点から実習指導を行う。 （30 中谷保美） 学校経営・危機管理，及び，社会科教育の視点から実習指導を行う。 （31 敦川真樹） 特別支援教育，教育相談の視点から実習指導を行う。 （32 吉田（宮平）美穂） 教育社会学(教員文化，キャリア教育)の視点から実習指導を行う。 （33 吉原寛） 教育相談，生徒指導の視点から実習指導を行う。 （34 大瀬幸治） 教育課程編成及び高等学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （35 土岐賢悟） インクルーシブ教育システム構築について，及び，小学校の授業づくりの視点から実習指導を行う。 （43 瀧本壽史） 学校経営及び社会科教育の視点から実習指導を行う。 （44 古川郁生） 特別活動，学校経営，数学教育の視点から実習指導を行う。 （85 三上雅生） 英語教育，道德教育，学校経営の視点から実習指導を行う。	共同
----------------------	--	-----------

特別支援教育実践コース	特別支援教育実習ⅠB-1 (課題把握)	連携協力校の仕方や授業の分析の仕方を身に付け、自らの課題の把握の方法を学ぶ。学校の実状を知り、自らの課題設定の資料とする。観察にあたっては、事実と解釈を分けて記録すること、まずは事実の収集に集中すること（解釈は収集後にできること）に心がけるようにする。また、省察については、一つの事実から多様な解釈ができること、解釈の客観性を高めるためには、さらにより多くの事実の収集が必要であることを理解した上で進めていく。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
	特別支援教育実習ⅠB-2 (課題把握)	週1日、連携協力校において教員として勤務する実習(学校フィールド実習)を行う。また、通常の授業期間外の9月に5日間連続(1週間)で、連携協力校において勤務する実習(集中実習)を行う。 こうした教育全般に関わる学校フィールド実習と集中実習を「特別支援教育実践研究法(教育実践研究Ⅰ)」と連動させ、各自の教育実践的な課題及び研究的な課題を実践での事実を基に把握できるようにする。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
	特別支援教育実習ⅡB (仮説形成)	実習ⅠB-1(課題把握)及び実習ⅠB-2(課題把握)の成果と課題をもとに、週1日、連携協力校で教員として勤務する実習(学校フィールド実習)を行う。こうした教育全般に関わる学校フィールド実習を「特別支援教育実践研究Ⅱ」と連動させ、各自の教育実践的な課題及び研究的な課題についてその解決のための仮説を設定し、仮説を基に、実践→省察を基に仮説の洗練を行っていく。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
	特別支援教育実習ⅢB (課題解決研究)	1年次での実習を基盤にして、連携協力校での週1回の勤務を行う「学校フィールド実習」や「集中実習」(8月～9月の期間)を通して自ら発見した課題の解決のための仮説を設定し実践・省察を行い、改善策を考えるとともに新たな課題を見つけるという課題解決のサイクルを繰り返していく。なお、実践の省察については、連携協力校の担当教員の助言を基にして、「特別支援教育実践研究Ⅲ」と連動して行う。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同

		連携協力校での週 1 回の勤務を行う「学校フィールド実習」を通して、自分で設定した課題解決のための取り組みを省察し、検証しつつ改善を行い、最終的に成果をまとめる。なお、実践の省察については、連携協力校の担当教員の助言を基にして、「特別支援教育実践研究Ⅳ」と連動で行う。そして、教育全般に関わる実践力習得のための理論と方法を理解する。 (共同) (29 菊地一文) 特別支援教育について、キャリア教育、及び、特別支援教育の制度設計の視点から実習指導を行う。 (31 敦川真樹) 特別支援教育について、教育相談、及び、学校現場の実状と実践の視点から実習指導を行う。	共同
--	--	---	----

弘前大学 設置申請に係る組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
弘前大学				弘前大学				
人文社会科学部				人文社会科学部				
文化創生課程	110	-	440	文化創生課程	110	-	440	
社会経営課程	155	-	620	社会経営課程	155	-	620	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	150	-	600	学校教育教員養成課程	140	-	560	定員変更(△10)
養護教諭養成課程	20	-	80	養護教諭養成課程	20	-	80	
医学部				医学部				
医学科	112 ^{2年次}	20	772	医学科	112 ^{2年次}	20	772	
保健学科	200 ^{3年次}	30	860	保健学科	200 ^{3年次}	30	860	学部の新設(意見伺い)
				心理支援科学科	10		40	
理工学部				理工学部				
数物科学科	78 ^{3年次}	2	316	数物科学科	78 ^{3年次}	2	316	
物質創成化学科	52	1	210	物質創成化学科	52	1	210	
地球環境防災学科	65	2	264	地球環境防災学科	65	2	264	
電子情報工学科	55	2	224	電子情報工学科	55	2	224	
機械科学科	80	2	324	機械科学科	80	2	324	
自然エネルギー学科	30	1	122	自然エネルギー学科	30	1	122	
農学生命科学科				農学生命科学科				
生物学科	40	-	160	生物学科	40	-	160	
分子生命科学科	40	-	160	分子生命科学科	40	-	160	
食料資源学科	55	-	220	食料資源学科	55	-	220	
国際園芸農学科	50	-	200	国際園芸農学科	50	-	200	
地域環境工学科	30	-	120	地域環境工学科	30	-	120	
計	1,322 ^{2年次}	20 ^{3年次}	5,692 ⁴⁰	計	1,322 ^{2年次}	20 ^{3年次}	5,692 ⁴⁰	
弘前大学大学院				弘前大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
文化科学専攻(M)	10	-	20		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
応用社会科学専攻(M)	6	-	12		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
				人文社会科学専攻(M)	16	-	32	研究科の新設(事前伺い)
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育専攻(M)	16	-	32		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	16	-	32	教職実践専攻(P)	18	-	36	研究科の新設(事前伺い)
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻(D)	60	-	240	医科学専攻(D)	60	-	240	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	30	-	60	保健学専攻(M)	30	-	60	
保健学専攻(D)	12	-	36	保健学専攻(D)	12	-	36	
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻(M)	120	-	240	理工学専攻(M)	120	-	240	
機能創成科学専攻(D)	6	-	18	機能創成科学専攻(D)	6	-	18	
安全システム工学専攻(D)	6	-	18	安全システム工学専攻(D)	6	-	18	
農学生命科学研究科				農学生命科学研究科				
農学生命科学専攻(M)	60	-	120	農学生命科学専攻(M)	50	-	100	定員変更(△10)
地域社会研究科				地域社会研究科				
地域社会専攻(D)	6	-	18	地域社会専攻(D)	6	-	18	
				地域共創科学研究科				研究科の新設(意見伺い)
				地域リノベーション専攻(M)	15	-	30	
				産業創成科学専攻(M)	15	-	30	
計	348	-	846	計	354	-	858	

※未だ入学定員が決まっていない大学に置いては、収容定員の後ろにPを記載ください。